



雪国まいたけ

2021年3月期 決算説明資料

2021年5月12日

株式会社雪国まいたけ
東証第一部:1375



1

2021年3月期 決算概要

2

2022年3月期 業績予想

3

中期経営計画（2020年3月期から2023年3月期）

4

参考資料



1

2021年3月期 決算概要



売上収益

前期比

+0.25億円
(+0.1%)

- 消費者の健康志向を背景に、通期では茸事業の販売量は増加し、増収
- 第4四半期は、コロナ禍の長期化や緊急事態宣言の発令などから、消費マインドの冷え込みなどもあり、想定以上に減速
- 2020年2月に販売終了したカット野菜、納豆の減収があったものの、2019年10月に子会社化した三蔵農林のマッシュルームが堅調に推移し、売上収益全体としては微増

調整後 営業利益

前期比

+11.9億円
(+17.3%)

- 茸事業の増収、ユーティリティ費の減少、生産品質の改善や生産効率の向上による労務費の削減等により増益
- 販売費及び一般管理費については、新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う対面での商談の自粛、店頭での販促活動の中止等により販売コストが減少した一方、売上の拡大により運賃、販売手数料等の変動コストは増加



2021年3月期 決算ハイライト (連結損益計算書)

(百万円)	2020年3月期	対収益 合計 比率	対売上 収益 比率	2021年3月期	対収益 合計 比率	対売上 収益 比率	増減額	増減率
収益合計 ^{*1)}	50,759	-	-	51,380	-	-	+620	+1.2%
売上収益	34,517	-	-	34,543	-	-	+25	+0.1%
公正価値変動による利得	16,242	-	-	16,837	-	-	+594	+3.7%
営業利益	6,691	13.2%	19.4%	7,823	15.2%	22.6%	+1,131	+16.9%
税引前利益	6,646	13.1%	19.3%	7,125	13.9%	20.6%	+479	+7.2%
親会社の所有者に帰属する当期利益	4,346	8.6%	12.6%	4,744	9.2%	13.7%	+397	+9.2%
【参考数値】								
調整後営業利益 ^{*2)}	6,899	13.6%	20.0%	8,090	15.7%	23.4%	+1,191	+17.3%
調整後EBITDA ^{*2)}	8,672	17.1%	25.1%	10,070	19.6%	29.2%	+1,398	+16.1%
調整後当期利益 ^{*2)}	4,282	8.4%	12.4%	5,218	10.2%	15.1%	+935	+21.9%

*1): 収益合計 = 売上収益 + 公正価値変動による利得

*2): 調整後営業利益、調整後 EBITDA 及び調整後当期利益を以下の算式により算出

- 調整後営業利益 = 営業利益 + マネジメントフィー^{*1)} + 上場関連費用^{*2)}
- 調整後 EBITDA = 調整後営業利益 + 減価償却費及び償却費
- 調整後当期利益 = 当期利益 + マネジメントフィー^{*1)} + 上場関連費用^{*2)} + リファイナンス関連損益^{*3)} + 調整項目の税金調整額

※1: 当社と Bain Capital Private Equity, LP 及び機神明ホールディングスとのマネジメント契約に基づく報酬であり、2022年3月期以降は発生しないもの

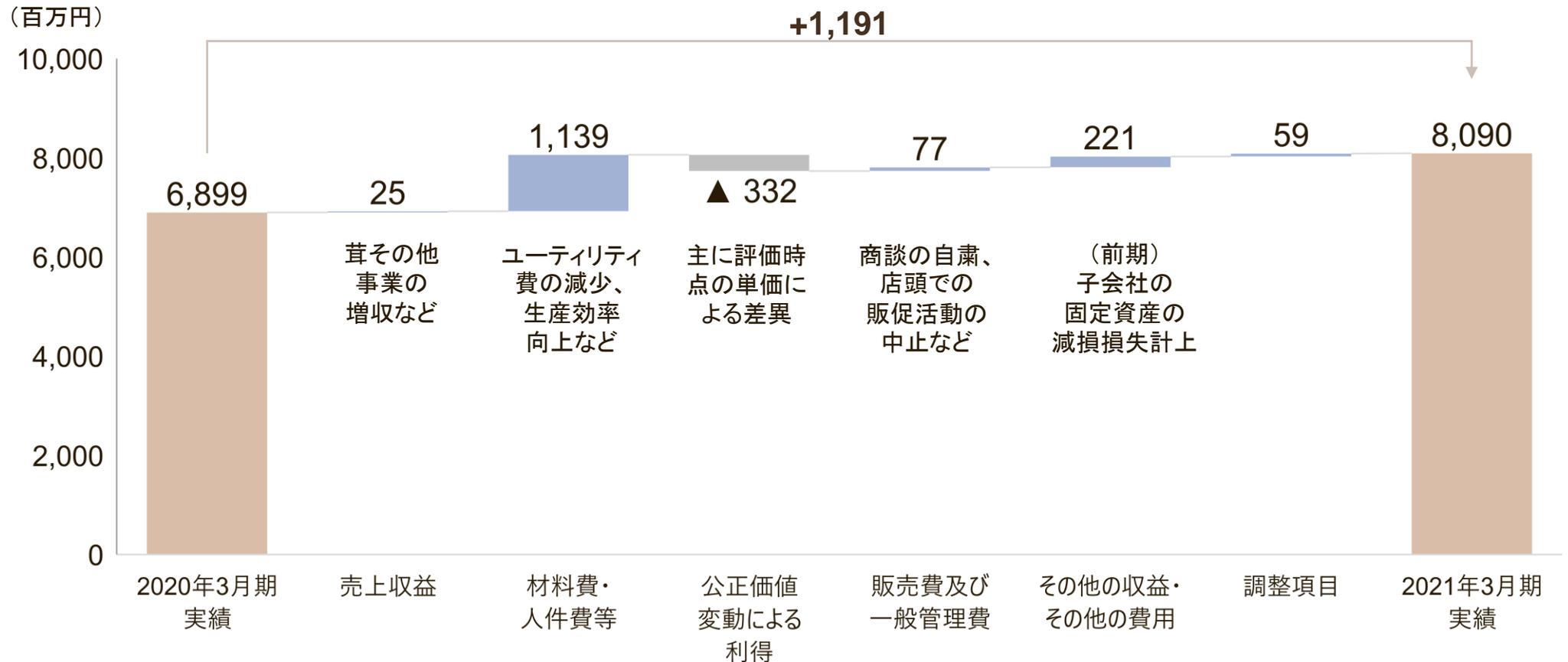
※2: 上場準備アドバイザー費用、上場のための組織体制構築に関する費用、上場のための国際会計基準導入及び適時開示体制構築に関する費用、合併に伴う不動産登記費用等の上場関連の一時的な費用

※3: 当社非公開化後に実施したリファイナンスに関連して一時的に発生したアドバイザー費用等。また、同リファイナンスに伴う契約金利の低下によって発生した一時的な利得とそれに運動して発生する残存契約期間における支払利息の増加額を相殺



調整後営業利益(通期)の増減分析(対前期)

- ・ユーティリティ費の減少などにより、調整後営業利益ベースで前期比1,191百万円の増益



調整後営業利益＝営業利益＋マネジメントフィー^{※1}＋上場関連費用^{※2}

※1: 当社と Bain Capital Private Equity, LP 及び株神明ホールディングスとのマネジメント契約に基づく報酬であり、2022年3月期以降は発生しないもの

※2: 上場準備アドバイザー費用、上場のための組織体制構築に関する費用、上場のための国際会計基準導入及び適時開示体制構築に関する費用、合併に伴う不動産登記費用等の上場関連の一時的な費用

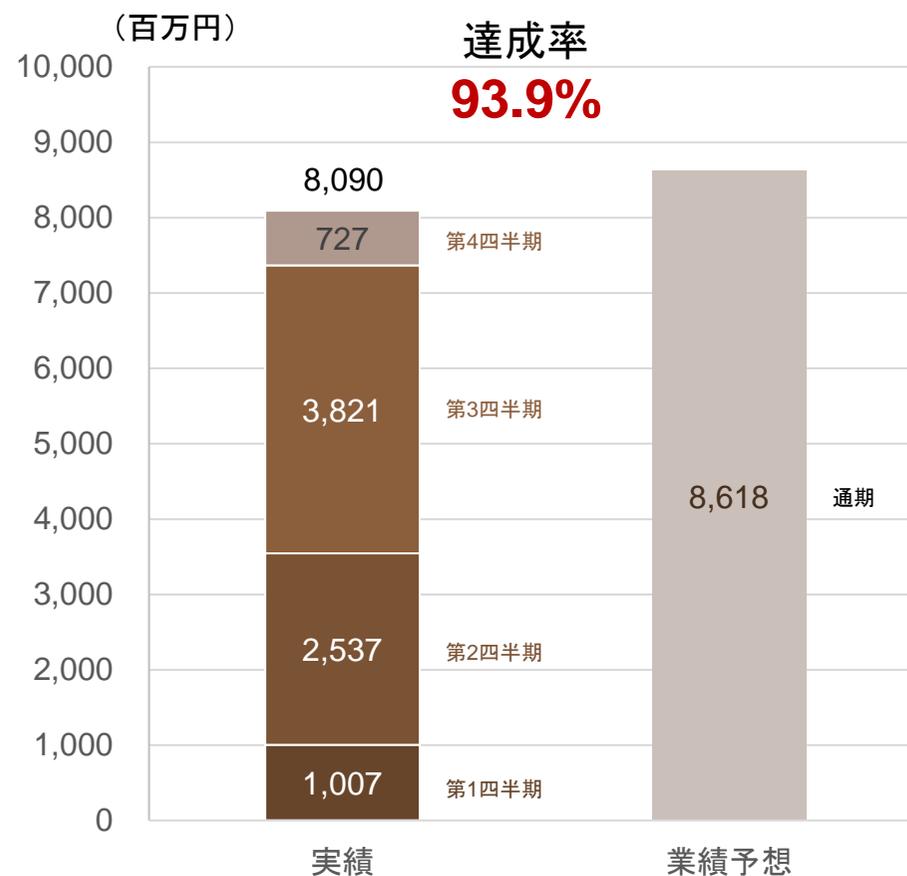
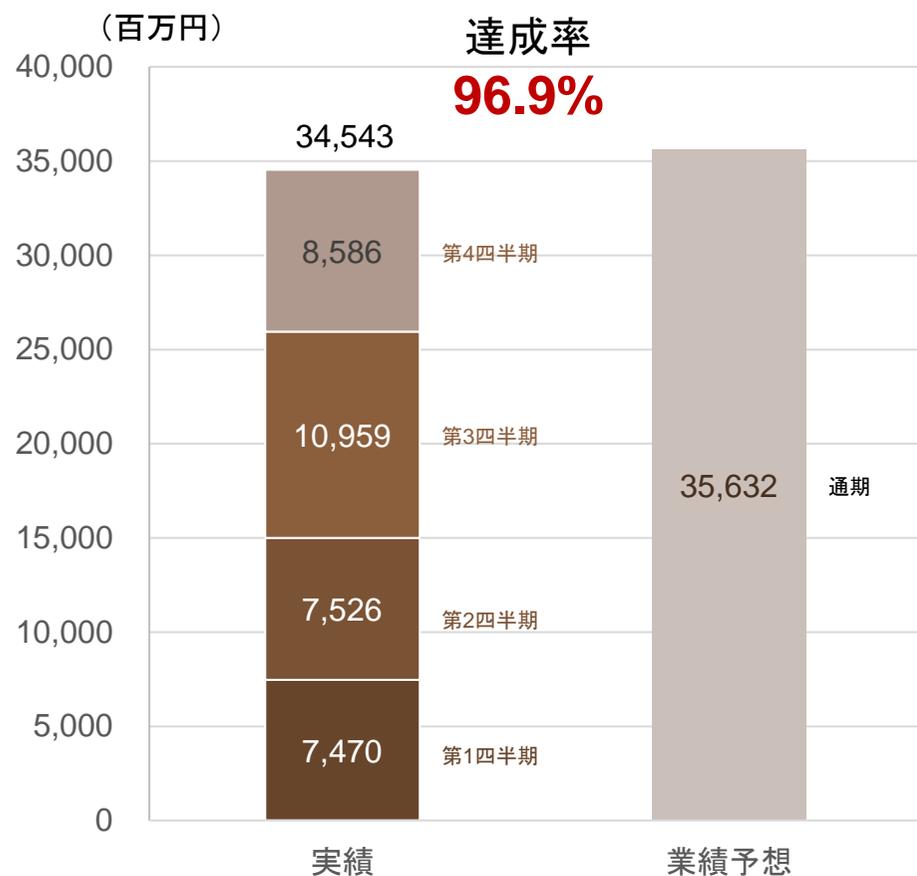


2021年3月期 業績予想に対する達成率(四半期推移)

- 第4四半期は、コロナ禍の長期化や緊急事態宣言の発令などから、消費マインドの冷え込みなどもあり、想定以上に減速
- 前期の業績予想に対して、売上収益は3.1%未達、調整後営業利益は6.1%未達

売上収益

調整後営業利益



(注) 調整後営業利益を以下の算式により算出

調整後営業利益 = 営業利益 + マネジメントフィー※1 + 上場関連費用※2

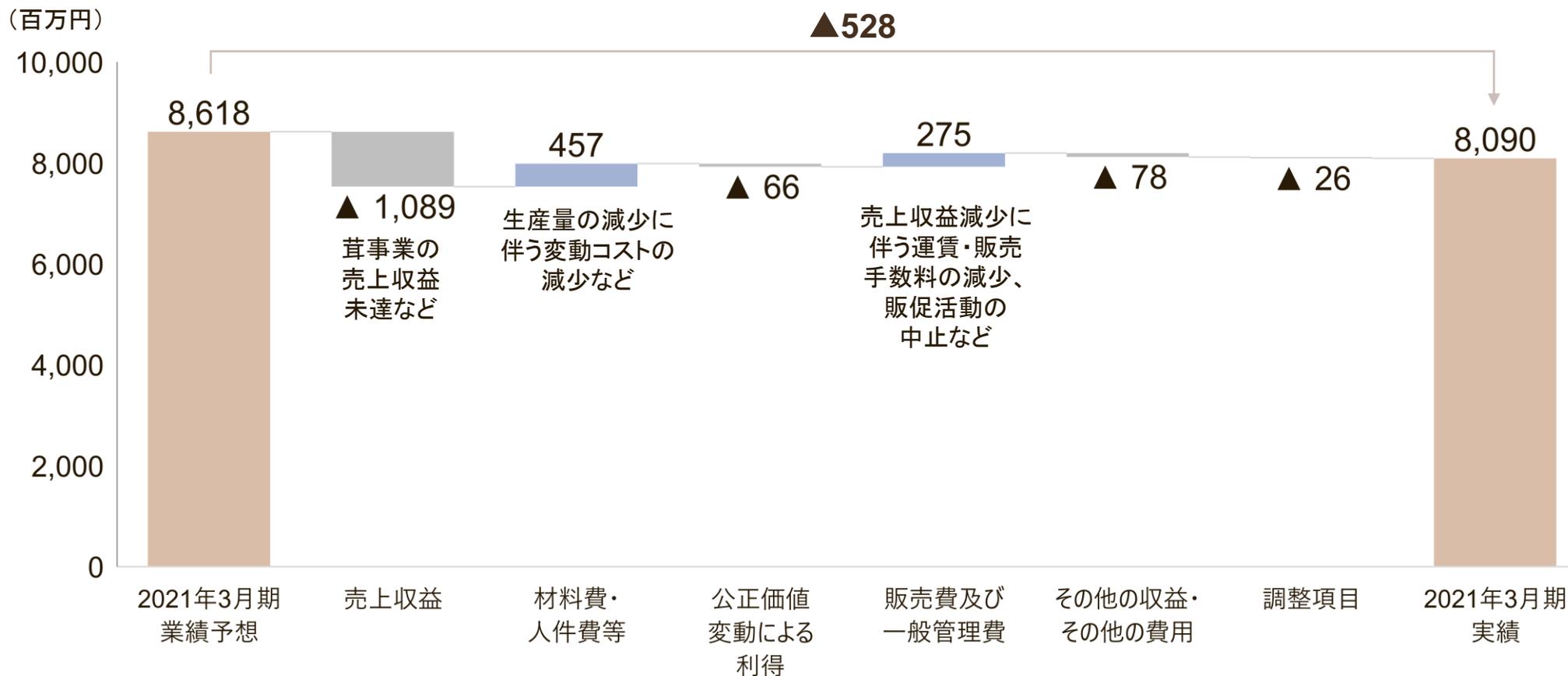
※1: 当社と Bain Capital Private Equity, LP 及び榊神明ホールディングスとのマネジメント契約に基づく報酬であり、2022年3月期以降は発生しないもの

※2: 上場準備アドバイザー費用、上場のための組織体制構築に関する費用、上場のための国際会計基準導入及び適時開示体制構築に関する費用、合併に伴う不動産登記費用等の上場関連の一時的な費用



調整後営業利益(通期)の増減分析(対業績予想)

- 野菜相場の低迷や、コロナ禍の長期化に伴う消費者のスーパーへの来店頻度の減少等、当社の想定以上に茸事業に向かい風の厳しい状況が続き、調整後営業利益ベースで業績予想比528百万円の減益



調整後営業利益＝営業利益＋マネジメントフィー※1＋上場関連費用※2

※1: 当社と Bain Capital Private Equity, LP 及び株神明ホールディングスとのマネジメント契約に基づく報酬であり、2022年3月期以降は発生しないもの

※2: 上場準備アドバイザー費用、上場のための組織体制構築に関する費用、上場のための国際会計基準導入及び適時開示体制構築に関する費用、合併に伴う不動産登記費用等の上場関連の一時的な費用



セグメント別売上収益(通期)

- ・主力事業であるまいたけを中心に、茸事業は増収となった一方で、不採算事業からの撤退により、その他事業は減収となったが、売上収益全体としては微増

(百万円)	2020年3月期	構成比	2021年3月期	構成比	増減額	増減率
売上収益合計	34,517	100.0%	34,543	100.0%	+25	+0.1%
茸事業	32,625	94.5%	33,995	98.4%	+1,370	+4.2%
まいたけ	19,785	57.3%	19,966	57.8%	+181	+0.9%
エリンギ	3,426	9.9%	3,419	9.9%	▲ 6	▲ 0.2%
ぶなしめじ	6,700	19.4%	6,818	19.7%	+118	+1.8%
茸その他	2,713	7.9%	3,791	11.0%	+1,077	+39.7%
その他事業	1,892	5.5%	547	1.6%	▲ 1,344	▲ 71.1%

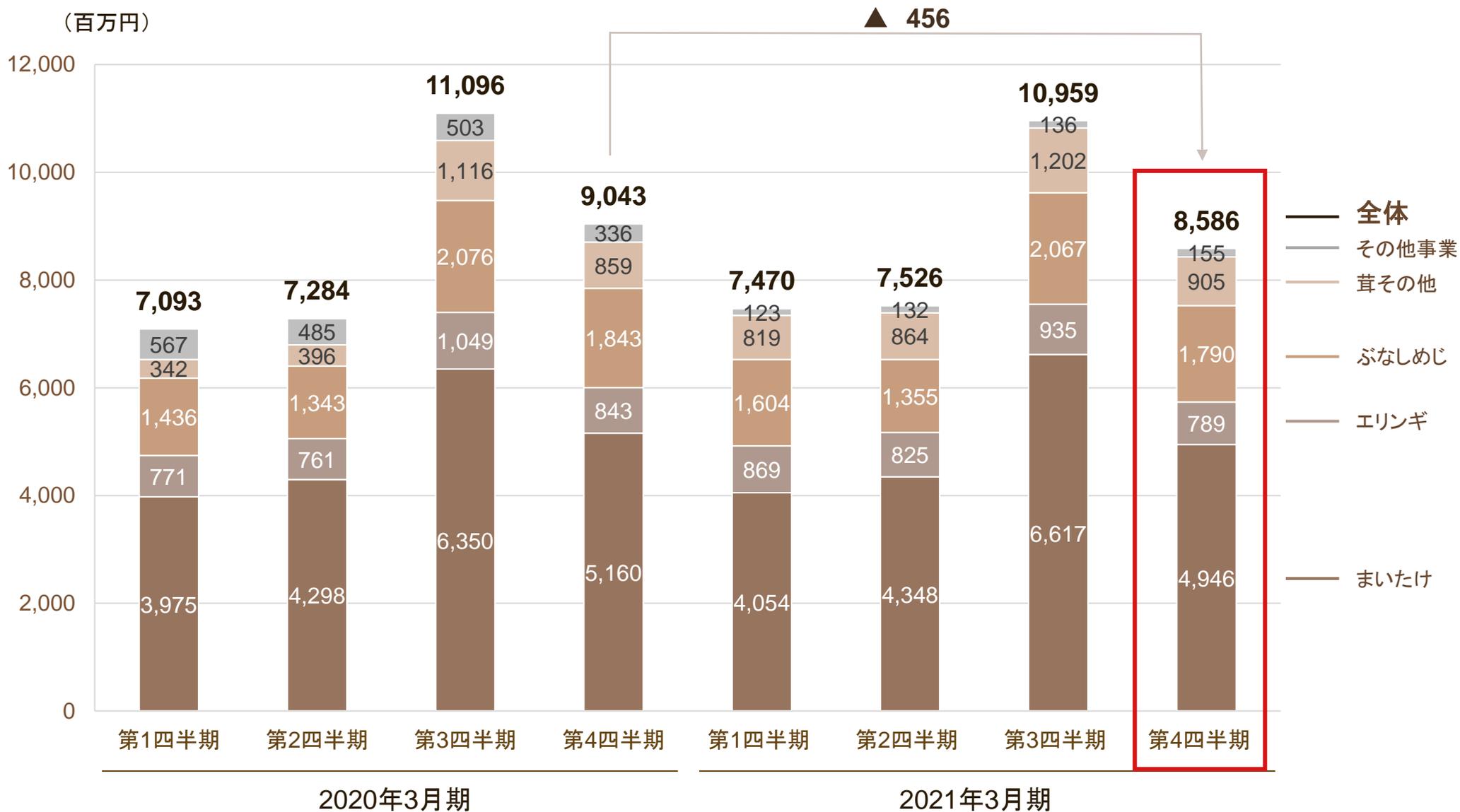
【参考数値】 カット野菜・納豆(2020年2月終売)、三蔵農林(2019年10月子会社化)を除く売上収益

(百万円)	2020年3月期	構成比	2021年3月期	構成比	増減額	増減率
売上収益合計	32,210	100.0%	32,266	100.0%	+56	+0.2%
茸事業	31,604	98.1%	31,719	98.3%	+114	+0.4%
その他事業	605	1.9%	547	1.7%	▲ 58	▲ 9.6%



セグメント別売上収益(四半期推移)

・ 第4四半期はまいたけの単価下落に伴い前年同期比で減収となり、売上収益全体としても前年同期比で減収





2021年3月期(通期) 茸事業の状況

- ・ まいたけは夏以降、消費者のスーパーへの来店頻度は減少したものの、健康志向は継続していたので、販売量は前期比で増加した一方で、販売単価は前期比で低調に推移
- ・ エリンギは単価が前期比プラスで推移し、通期の売上収益はほぼ計画通り
- ・ ぶなしめじの販売量は前期比で減少したものの、販売単価はほぼ好調に推移

(%)	販売量比較 ^{*1)}		販売単価比較 ^{*1)}	
	前期比	計画比 ^{*3)}	前期比	計画比 ^{*3)}
まいたけ	104.7%	97.6%	96.3%	96.2%
エリンギ	97.7%	97.8%	103.3%	102.4%
ぶなしめじ	95.1%	99.0%	109.4%	101.0%
茸その他 ^{*2)}	—	151.5%	—	175.6%

*1): 加工品を除いて比較

*2): 本しめじ、はたけしめじ、マッシュルームの合算値にて比較

*3): 2020年9月17日に公表した「東京証券取引所市場第一部への上場に伴う当社決算情報等のお知らせ」における当社グループの連結業績予想との比較



2021年3月期 決算ハイライト (連結財政状態計算書)

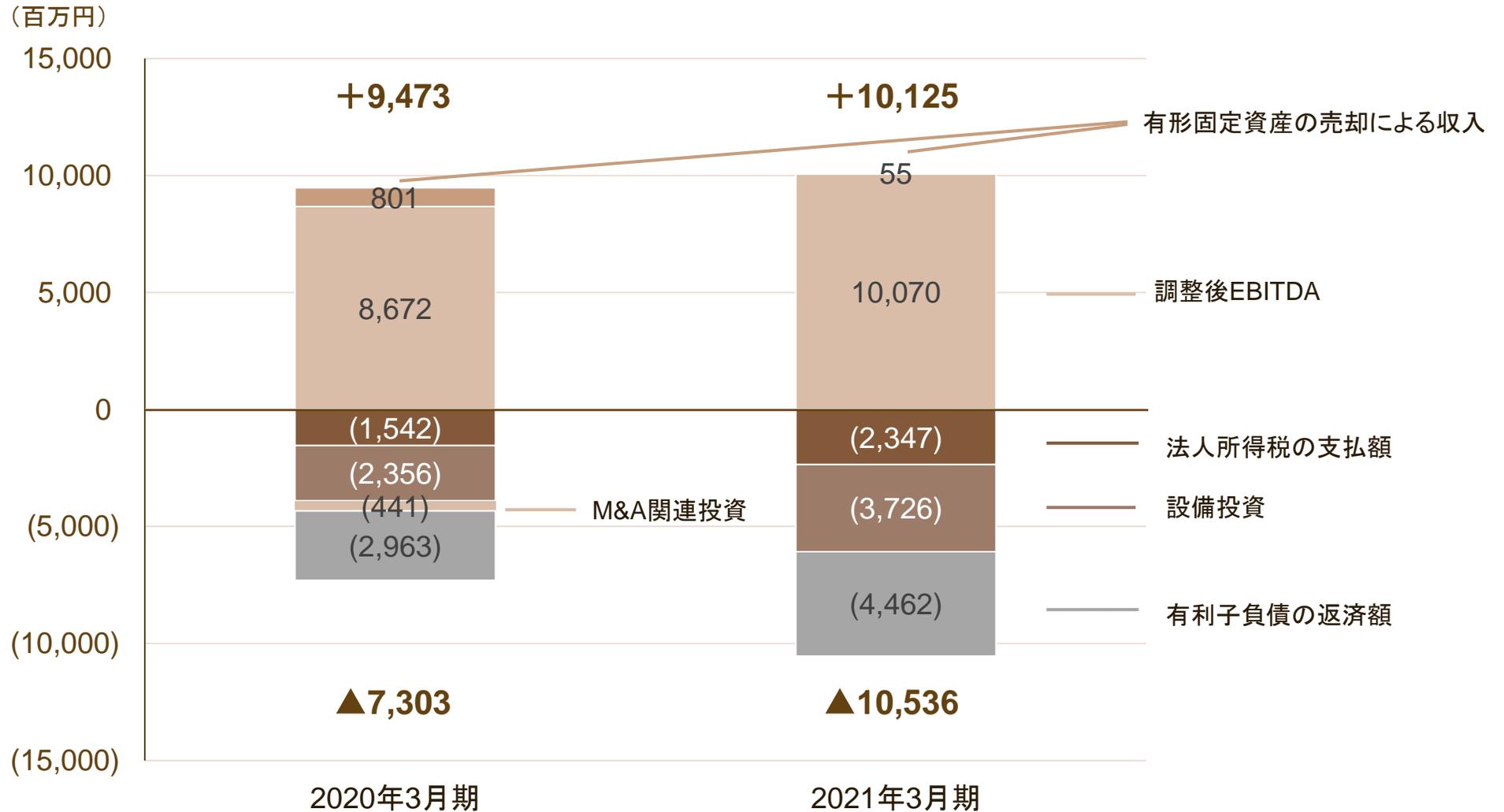
- ・ 約定返済及び期限前返済の実施により、借入金が大きく減少
- ・ 負債が減少する一方で、資本の厚みは増しており、財務の健全性を維持

(百万円)	2020年3月期	2021年3月期	増減額	増減率	主な増減理由
流動資産	11,045	10,202	▲ 842	▲ 7.6%	
棚卸資産	1,292	1,390	+98	+7.6%	公正価値変動による利得
生物資産	3,019	2,904	▲ 114	▲ 3.8%	
非流動資産	24,153	25,441	+1,287	+5.3%	有形固定資産増加
資産合計	35,199	35,644	+444	+1.3%	
流動負債	7,280	7,614	+334	+4.6%	買掛金、投資支払手形、 未払法人所得税等
1年内返済予定の長期借入金	942	1,132	+190	+20.2%	
非流動負債	23,017	18,798	▲ 4,218	▲ 18.3%	
借入金	22,438	18,351	▲ 4,086	▲ 18.2%	期限前返済 35億円 約定返済 10億円
負債合計	30,297	26,413	▲ 3,884	▲ 12.8%	
資本合計	4,901	9,230	+4,329	+88.3%	
負債及び資本合計	35,199	35,644	+444	+1.3%	



キャッシュフロー実績(通期)

- 販路拡大に向けた増産、及び生産性向上に向けたファクトリーオートメーション化を推進するため、設備投資を拡大しているものの、財務体質の改善に向けて、有利子負債の期限前返済も実施





主要財務指標の状況

- 堅調な業績状況を踏まえ、期限前返済を実施し、有利子負債に関する財務指標を改善

のれんに関する財務指標推移

のれん/純資産倍率 ^{*1)}



純有利子負債に関する財務指標推移

ネットD/Eレシオ ^{*1)}



ネットD/EBITDA倍率 ^{*2)}



- 減損の兆候の有無に関わらず、年に1度減損テストを実施
- 四半期毎に減損の兆候の有無を確認し、減損の兆候がある場合は適宜減損テストを実施

*1): IFRSに基づく連結財務数値

*2): 一過性費用を除いた調整後EBITDAの実績値を使用。調整後EBITDA=調整後営業利益+減価償却費

*3): 直近12ヵ月(2020年1月~2020年12月)の累計調整後EBITDAにて試算



業績への影響

- 足元では、コロナウイルスの変異株によるまん延に伴い、緊急事態宣言・まん延防止等重点措置が長期化し、外部環境に変化がみられる
- 2020年4月に発令された緊急事態宣言をきっかけとした巣ごもり需要は、2021年3月期上期には追い風効果があったが、今期はほぼなくなると想定

感染拡大防止 に対する 取り組み

全社での 取り組み

- 検温・マスク着用徹底
- 手洗い消毒の励行・定期的な換気
- 密閉空間での社内会議や打ち合わせの原則禁止
- 昼食の時間差取得や着席と離席時の時間の記録、会話自粛
- 食事中は、座席を1mの間隔に空け、対面での着座を原則禁止
- 接触確認アプリの利用推奨
- 緊急事態宣言地域への往来を抑制

営業所等 での 取り組み

- 感染拡大地域においては、オフィスへの出勤は必要最低限として、原則テレワーク対応



アグリテックの追求による生産性向上への取り組み

- ロボット技術やAIを積極的に活用し、各工程の効率化を図り、省人化を推進

 雪国まいたけ

×

AgriTech

アグリテック



まいたけ
カット工程



まいたけ
植菌工程



エリンギ
収穫工程





まいたけカット工程における効果

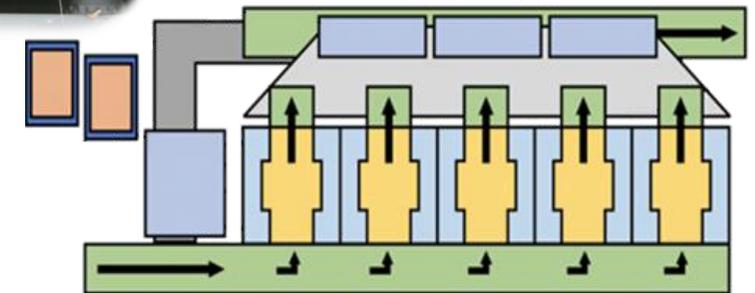
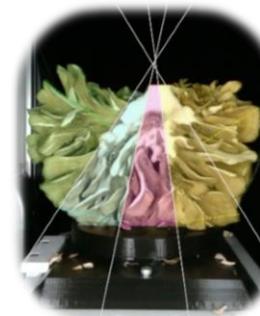
- 熟練従業員と同等レベルでカットすることが可能なAIアルゴリズム搭載の自動カットロボットの開発に成功
- 今後は、AIやロボティクスの実装をした次世代型パッケージングライン(カットから包装までの工程)の開発による省人化を目指す

導入前



- 手作業により、パックに応じたサイズにまいたけのカットを行う
- 熟練従業員と経験が浅い従業員では、作業効率に差がある
- カットを行う従業員の人数確保が必要

導入後(想定)



- AIアルゴリズムを実装する自動カットロボットの導入
- 熟練従業員と同等レベルでカットが可能



まいたけ 自動植菌機の導入

- まいたけの植菌工程において、自動化ラインを確立し、省人化を進めるとともに作業における従業員の負担を軽減

導入前



導入後



エリンギ自動収穫に よる収穫量の拡大

- エリンギの自動収穫機にて、1回の収穫量を増やすことで、収穫作業の効率化を図る





プロモーション戦略

- まいたけのおいしさ、豊富な栄養素、健康機能性等を消費者に訴求するため、調味料メーカーや中食・外食企業とのコラボレーションや消費者向けキャンペーンを積極的に実施。消費者とのタッチポイントを広げ、新規需要を創出



プロモーション



大手調味料メーカーとのメニュータイアップ



うちかつ! (打ち勝つ&家活) 消費者キャンペーン



春の炊き込みごはんメニュー提案

中食・その他



外食(うどん店)にて舞茸天を通じてブランドを訴求



小売店で、受験シーズンに合わせて、舞茸天ぷら企画実施



セブン-イレブンでおにぎりやパスタ等の具材にきのこを使用

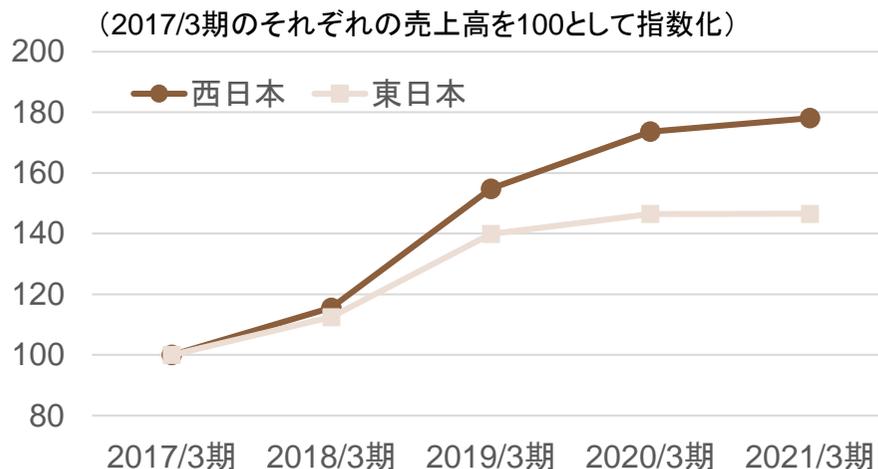


東日本と西日本の売上高・販売量の成長率比較

- 西日本エリアは東日本エリアと比べてまだ未だの消費量がまだ少なく、今後増加する余地は大きい
- 実際に、西日本エリアでは、東日本エリアを上回る売上高・販売量の成長率を見せる
- 福岡営業所を新設し、九州における需要開拓を進める



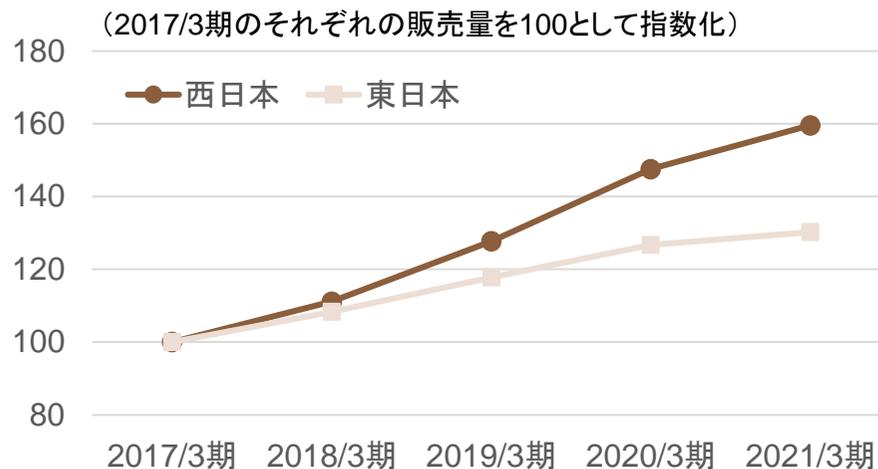
売上高



平均成長率
(CAGR)

東日本 10.0%
西日本 15.5%

販売量



年平均成長率
(CAGR)

東日本 6.8%
西日本 12.4%



CO₂の排出量低減への取り組み

- おが粉の調達方法を見直すことで、CO₂の排出量を抑制し、環境負荷低減につなげていく

おが粉調達先の見直し

取り組み

- 南魚沼市内の生産者から杉おが粉の調達を行う
- 通期でおが粉全体量のおよそ1割の調達を予定
- 広葉樹も近隣調達を進める



効果

- 県内生産者から調達することにより、おが粉運搬時のCO₂排出量低減(下表)
- おが粉の地産地消、地元林業の活性化につなげる

物流CO₂削減予定量(杉おが粉)

取り組みによる結果		2021年3月期実績	2022年3月期予想	増減量	増減(%)
全体	CO ₂ 排出量(tCO ₂)	94.81	87.97	▲ 6.84	▲ 7.2%
	総運搬距離(km)	127,052	118,859	▲ 8,193	▲ 6.4%



トレー見直しによる効果

- まいたけのトレー材質の見直しによるプラごみ削減を新たに開始
- フィルム包装(ピロー化)やトレーの見直しを推進することで、プラごみ削減やCO₂排出抑制につなげる



フィルム包装の 推進

- 「雪国しめじ恵み」で、株を固定するトレーをなくし、フィルムのみで包装する
- まいたけのフィルム包装製品の製造、開発

*1): 2022年3月期販売計画数量に基づく試算

*2): CO₂削減効果については環境庁発行の「地球温暖化対策地域推進計画ガイドライン(第3版)」記載の廃棄物焼却に発生するCO₂排出係数である「産業廃棄物廃プラスチック類 2.55tCO₂/t」を参考に算出



神明ホールディングスとの事業シナジー

- 神明ホールディングスは、国内の米穀卸最大手であり、神明ホールディングスの持つネットワーク、事業ノウハウを活用することにより、当社の西日本エリア及び海外への事業拡大が加速

西日本を中心とした新規取引先開拓、
既存取引先の更なる強化



コラボレーションラベル

更なる食文化浸透を目的とした
中食・外食業態への販路拡大



神明デリカとの共同開発商品

元気寿司とのコラボ商品



米輸出大手企業として確立された
神明HDの海外販路活用



※神明HDの海外販路

事業領域の拡大に資する戦略的M&Aの実現



瑞穂農林(株)、(株)きのごセンター金武、(株)三蔵農林の
M&Aにより、商品ラインアップ拡充



連結損益計算書(通期)

- ・売上収益はほぼ横ばい、公正価値変動による利得はネットで約1.8億円のマイナスインパクトとなったが、ユーティリティ費の低減などにより増益

(百万円)	2020年3月期	2021年3月期	増減額	増減率
売上収益	34,517	34,543	+25	+0.1%
公正価値変動による利得	16,242	16,837	+594	+3.7%
収益合計	50,759	51,380	+620	+1.2%
材料費、人件費等	19,196	18,057	▲ 1,139	▲ 5.9%
公正価値変動による利得	16,096	17,023	+927	+5.8%
売上原価	35,293	35,081	▲ 211	▲ 0.6%
売上総利益	15,466	16,299	+832	+5.4%
販売費及び一般管理費	8,369	8,291	▲ 77	▲ 0.9%
その他の収益	290	58	▲ 231	▲ 79.8%
その他の費用	696	243	▲ 453	▲ 65.0%
営業利益	6,691	7,823	+1,131	+16.9%
税引前利益	6,646	7,125	+479	+7.2%
親会社の所有者に帰属する当期利益	4,346	4,744	+397	+9.2%
【参考数値】				
調整後営業利益	6,899	8,090	+1,191	+17.3%
調整後EBITDA	8,672	10,070	+1,398	+16.1%
調整後当期利益	4,282	5,218	+935	+21.9%



連結損益計算書(四半期推移)

- ・コロナウイルス変異株のまん延による緊急事態宣言の長期化などがあり、第4四半期は想定以上に減速
- ・3月末のまいたけの単価下落により、公正価値変動による利得のマイナス影響が拡大

(百万円)	2020年3月期				2021年3月期			
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
売上収益	7,093	7,284	11,096	9,043	7,470	7,526	10,959	8,586
公正価値変動による利得	2,579	4,402	6,269	2,990	3,153	4,504	6,097	3,082
収益合計	9,672	11,687	17,365	12,033	10,624	12,031	17,056	11,668
材料費、人件費等	4,341	4,321	5,392	5,140	4,122	4,302	4,995	4,636
公正価値変動による利得	3,071	3,032	5,717	4,274	3,605	3,241	5,995	4,181
売上原価	7,412	7,354	11,110	9,415	7,728	7,544	10,990	8,818
売上総利益	2,260	4,332	6,255	2,618	2,895	4,487	6,065	2,850
販売費及び一般管理費	1,990	1,899	2,316	2,162	1,909	2,048	2,234	2,099
その他の収益	209	10	18	52	16	10	9	21
その他の費用	49	119	456	71	94	77	23	47
営業利益	429	2,324	3,500	437	909	2,371	3,817	724
税引前四半期利益	269	2,193	3,435	748	775	2,243	3,484	621
親会社の所有者に帰属する四半期利益	151	1,449	2,179	566	487	1,478	2,299	478
【参考数値】								
調整後営業利益	474	2,381	3,547	495	1,007	2,537	3,821	724
調整後EBITDA	893	2,809	4,003	965	1,473	3,035	4,329	1,231
調整後四半期利益	218	1,502	2,231	330	591	1,629	2,482	514



連結キャッシュ・フロー計算書(通期)

- ・長期借入金の返済により、2021年3月末における現金及び現金同等物の残高は、前期末比683百万円減の3,777百万円

(百万円)	2020年3月期	2021年3月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,891	8,204	+3,312
税引前利益	6,646	7,125	+479
営業債権及びその他の債権の増減額	787	119	▲ 668
棚卸資産の増減額	▲ 278	▲ 98	+180
営業債務及びその他の債務の増減額	▲ 1,838	▲ 221	+1,616
従業員給付に係る負債の増減額	▲ 576	176	+752
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲ 1,994	▲ 3,689	▲ 1,694
有形固定資産の取得による支出	▲ 2,356	▲ 3,726	▲ 1,370
有形固定資産の売却による収入	801	55	▲ 746
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲ 5,053	▲ 5,198	▲ 145
長期借入金の返済による支出	▲ 2,963	▲ 4,462	▲ 1,498
現金及び現金同等物の増減額	▲ 2,156	▲ 683	+1,473
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,461	3,777	▲ 683



連結財政状態計算書

・負債が減少する一方で、資本の厚みは増しており、財務の健全性を維持

(百万円)	2020年3月期	2021年3月期	増減額	増減率
流動資産	11,045	10,202	▲ 842	▲ 7.6%
現金及び現金同等物	4,461	3,777	▲ 683	▲ 15.3%
営業債権及びその他の債権	2,141	2,021	▲ 119	▲ 5.6%
棚卸資産	1,292	1,390	+98	+7.6%
生物資産	3,019	2,904	▲ 114	▲ 3.8%
非流動資産	24,153	25,441	+1,287	+5.3%
有形固定資産	16,710	18,031	+1,321	+7.9%
のれん及び無形資産	5,320	5,304	▲ 16	▲ 0.3%
資産合計	35,199	35,644	+444	+1.3%
流動負債	7,280	7,614	+334	+4.6%
営業債務及びその他の債務	2,390	1,970	▲ 419	▲ 17.5%
未払法人所得税	1,539	1,784	+244	+15.9%
1年内返済予定の長期借入金	942	1,132	+190	+20.2%
非流動負債	23,017	18,798	▲ 4,218	▲ 18.3%
借入金	22,438	18,351	▲ 4,086	▲ 18.2%
リース負債	483	360	▲ 122	▲ 25.4%
負債合計	30,297	26,413	▲ 3,884	▲ 12.8%
資本合計	4,901	9,230	+4,329	+88.3%
親会社の所有者に帰属する持分合計	4,899	9,233	+4,333	+88.4%
負債及び資本合計	35,199	35,644	+444	+1.3%



主要な経営指標(通期)

- 2021年3月期の利益率指標はおおむね改善、配当性向は30%程度の目標を上回っている

	2020年3月期	2021年3月期
調整後営業利益率	13.6%	15.7%
調整後EBITDAマージン	17.1%	19.6%
調整後当期利益率	8.4%	10.2%
基本的1株当たり当期利益 ^{*1)}	109.07円	119.03円
1株当たり調整後当期利益 ^{*1)}	107.46円	130.93円
ROE(親会社所有者帰属持分当期利益率) ^{*2)}	120.6%	67.1%
ROIC(投下資本利益率) ^{*3)}	15.6%	17.9%
配当性向	38.8%	35.3%
DOE(親会社所有者帰属持分配当率) ^{*4)}	46.8%	23.7%

*1): 当社は2020年7月30日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行っており、2020年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、基本的1株当たり当期利益及び1株当たり調整後当期利益を算定

*2): ROE(親会社所有者帰属持分当期利益率) = 親会社株主に帰属する当期利益 ÷ 期中平均親会社の所有者に帰属する持分合計

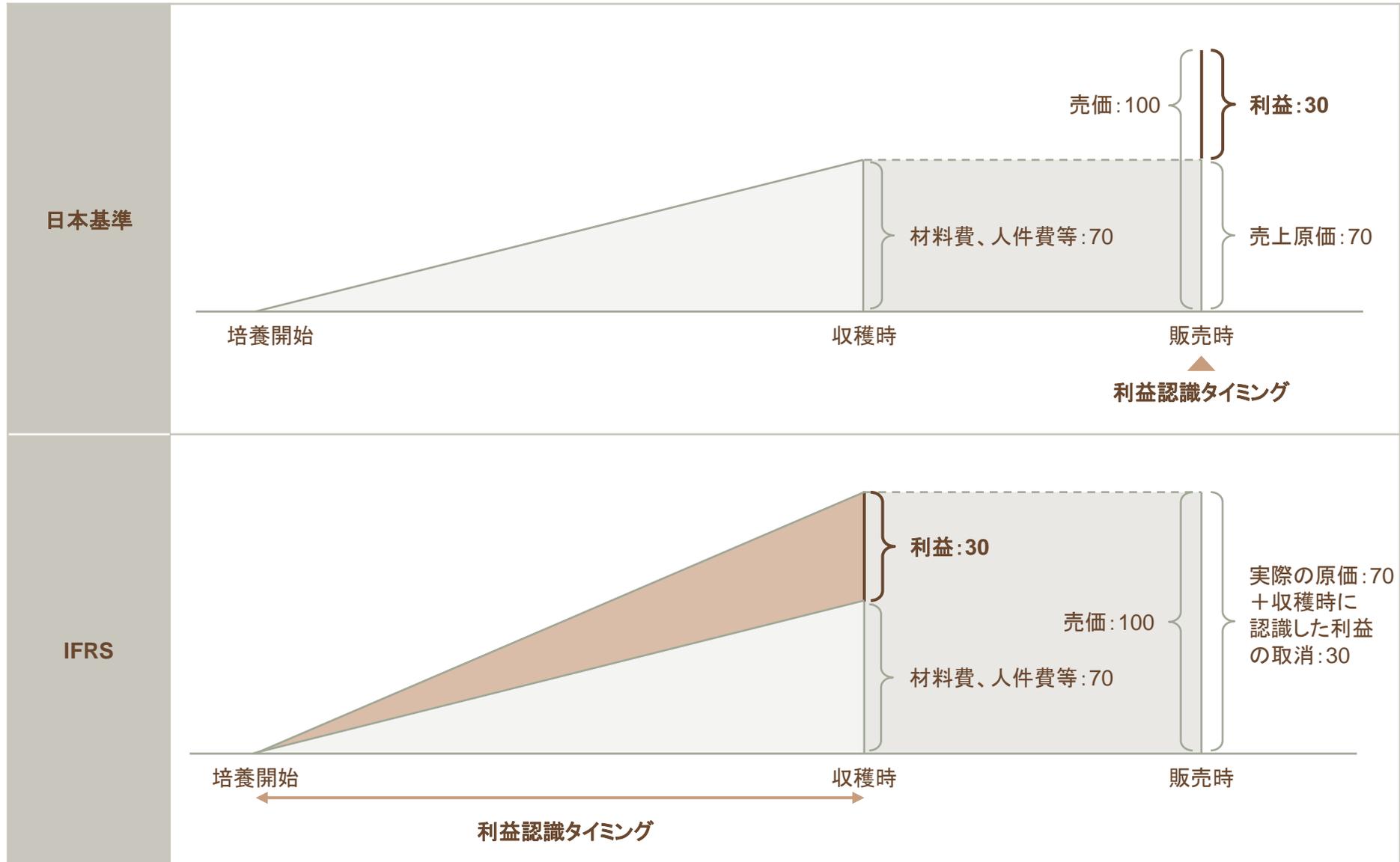
*3): ROIC(投下資本利益率) = (営業利益 × (1 - 実効税率)) ÷ (株主資本 + 有利子負債)

*4): DOE(親会社所有者帰属持分配当率) = 年間配当総額 ÷ 期中平均親会社の所有者に帰属する持分合計



IAS第41号「農業」の会計処理に関する概説

- 日本基準では販売時に利益を認識するのに対し、IFRSでは培養から収穫にかけて前倒しで利益を認識





農業会計適用による損益インパクト(通期)

- 2021年3月末のまいたけ単価の下落の影響などがあり、農業会計適用によるネット損益インパクトは▲186百万円となった

(単位:百万円)

	内訳	2021年3月期
公正価値変動による利得(収益)	期首仕掛品に含まれる利得	▲ 1,478
	期末仕掛品に含まれる利得	1,330
	当期収穫分	17,026
	その他	▲ 40
	合計	16,837
公正価値変動による利得(売上原価)	期首製品・半製品に含まれる利得	▲ 436
	期末製品・半製品に含まれる利得	402
	当期収穫分	▲ 17,026
	その他	36
	合計	▲ 17,023
損益インパクト合計		▲ 186

仕掛品に含まれる利得は、期首対比で期末に単価が大きく下落したことから、▲148百万円のマイナスインパクトとなった

また、製品在庫の単価が期末に期首対比で大きく下落したことから、製品・半製品に含まれる利得は▲33百万円のマイナスインパクトとなった



農業会計適用による損益インパクト(四半期推移)

- ・ 公正価値変動による利得の損益インパクトは、四半期毎に大きく変動するが、通期での影響は軽微

(百万円)		第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	合計	
2021年 3月期	収益	期首仕掛品に含まれる利得	▲1,478	▲1,086	▲2,177	▲2,314	▲7,056
		期末仕掛品に含まれる利得	1,086	2,177	2,314	1,330	6,908
2021年 3月期	売上原価	期首製品・半製品に含まれる利得	▲436	▲352	▲513	▲481	▲1,784
		期末製品・半製品に含まれる利得	352	513	481	402	1,750
当期収穫分		±0	±0	±0	0	0	
その他		25	11	▲3	▲36	▲3	
損益インパクト合計		▲451	+1,263	+102	▲1,099	▲186	
2020年 3月期	収益	期首仕掛品に含まれる利得	▲1,503	▲986	▲2,045	▲2,601	▲1,503
		期末仕掛品に含まれる利得	986	2,045	2,601	1,478	1,478
2020年 3月期	売上原価	期首製品・半製品に含まれる利得	▲255	▲257	▲559	▲557	▲255
		期末製品・半製品に含まれる利得	257	559	557	436	436
当期収穫分		±0	±0	±0	±0	±0	
その他		22	10	▲2	▲40	▲10	
損益インパクト合計		▲491	+1,370	+551	▲1,284	+146	



2

2022年3月期 業績予想



当社グループ
全体の見通し

- ・コロナウイルス変異株のまん延に伴う緊急事態宣言・まん延防止等重点措置の長期化などによる消費低迷、家庭での節約傾向の高まり、スーパーへの来店頻度の減少などを想定
- ・前期は想定より低位で推移していた原油価格も今期は戻っている想定
- ・下期は外部環境の厳しさが緩和に向かいつつあると想定

収益合計

- ・まいたけの売上収益は208.2億円(前期比4.3%増)、エリンギの売上収益は33.6億円(同1.5%減)、ぶなしめじの売上収益は65.1億円(同4.4%減)、茸その他事業の売上収益は、41.5億円(同9.5%増)
- ・売上収益は353.7億円(同2.4%増)、公正価値変動による利得は161.7億円(同3.9%減)、収益合計は515.5億円(同0.3%増)

売上原価
売上総利益

- ・前期低位で推移した原油価格の上昇に伴うユーティリティ費が増加し、材料費、人件費等は191.3億円(前期比6.0%増)、公正価値変動による利得は161.0億円(同5.4%減)
- ・売上原価は352.4億円(同0.5%増)、売上総利益は163.1億円(同0.1%増)

販管費及び
一般管理費
営業利益

- ・店頭での販売促進活動による販売促進費の増加や出張の増加、労務費の増加、その他試験研究費の増加等により、販売費及び一般管理費は87.9億円(前期比6.1%増)
- ・営業利益は74.3億円(同5.0%減)

金融収支
税引前利益
当期利益

- ・前期に実施した借入金返済による支払利息の低減があり、金融収支は▲4.5億円
- ・税引前利益は69.8億円(前期比2.0%減)、親会社の所有者に帰属する当期利益は45.8億円(同3.4%減)の見込み



2022年3月期 業績予想

(百万円)	2021年3月期 実績	2022年3月期 予想	増減率
収益合計	51,380	51,553	+0.3%
内売上収益	34,543	35,376	+2.4%
営業利益	7,823	7,434	▲ 5.0%
税引前利益	7,125	6,982	▲ 2.0%
親会社の所有者に帰属する当期利益	4,744	4,581	▲ 3.4%
基本的1株当たり当期利益(円)	119.03	114.80	▲ 3.6%
【参考数値】			
調整後営業利益	8,090	7,434	▲ 8.1%
対収益合計比率	15.7%	14.4%	-
調整後EBITDA	10,070	9,388	▲ 6.8%
調整後当期利益	5,218	4,749	▲ 9.0%

- ・ 前年度上期にはあった茸事業へのコロナ禍の追い風効果は今期はほぼ無くなると想定
- ・ 足元は消費マインドの冷え込みなど外部環境の厳しさが感じられるものの、下期はその厳しさが緩和に向かいつつあると想定
- ・ 前期は原油相場が想定より低く推移し、コスト低減効果があったが、今期は原油相場が戻っており、コスト上昇要因
- ・ 今期は、前期のコロナ禍の追い風効果、原油相場のプラス影響はほぼ無くなると想定して業績予想を策定



注)：調整後営業利益、調整後 EBITDA 及び調整後当期利益を以下の算式により算出

- ・ 調整後営業利益＝営業利益＋マネジメントフィー^{*1}＋上場関連費用^{*2}
- ・ 調整後 EBITDA＝調整後営業利益＋減価償却費及び償却費
- ・ 調整後当期利益＝当期利益＋マネジメントフィー^{*1}＋上場関連費用^{*2}＋リファイナンス関連損益^{*3}＋調整項目の税金調整額

^{*1}: 当社と Bain Capital Private Equity, LP 及び榊神明ホールディングスとのマネジメント契約に基づく報酬であり、2022年3月期以降は発生しないもの

^{*2}: 上場準備アドバイザー費用、上場のための組織体制構築に関する費用、上場のための国際会計基準導入及び適時開示体制構築に関する費用、合併に伴う不動産登記費用等の上場関連の一次的な費用

^{*3}: 当社非公開化後に実施したリファイナンスに関連して一時的に発生したアドバイザー費用等。また、同リファイナンスに伴う契約金利の低下によって発生した一時的な利得とそれに連動して発生する残存契約期間における支払利息の増加額を相殺



今後に向けた当社の財務方針

- ・潤沢なキャッシュフローを背景に、成長投資の強化、財務体質の安定強化、株主還元策をバランス良く行う

成長投資の強化

- ・生産供給能力の継続的な強化
- ・中長期的な海外進出や工場建設の検討
- ・M&Aも活用した事業ポートフォリオの更なる強化も随時検討



雪国ま味け

財務方針

財務体質の安定強化

- ・有利子負債削減を通じたバランスシートの強化継続
- ・ネットD/Eレシオ、ネットD/EBITDA倍率等財務指標の改善

株主還元策の実施

- ・毎期のフリー・キャッシュフローに応じた弾力的な利益還元策を行う方針
- ・連結配当性向:30%程度を目標に安定的な配当を継続
- ・株主優待制度を実施(年1回)



株主還元・株主優待

- 連結配当性向 30%程度を目標に、安定的な配当を継続して行う
- 株主優待は年1回、自社製品セットを贈呈

配当

	年間配当(予想)	42円00銭
1株当たり配当金	中間配当(予想)	14円00銭
	期末配当(予想)	28円00銭

株主優待

対象となる株主さま

毎年3月末日の株主名簿に記載された1単元(100株)以上保有かつ6ヶ月以上継続保有(割当基準日である3月末日とその前年の9月末日に、同じ株主番号にて、連続して株主名簿に記載された状態)

優待内容

自社製品セット(以下の3セットより1セットを選択)



Aセット



Bセット



Cセット

贈呈時期及び方法

毎年6~7月頃に、直前の3月末日現在の対象の株主さまに発送



3

中期経営計画 (2020年3月期から2023年3月期)



- ・コロナウイルス変異株のまん延など、外部環境に変化がみられるため、影響を分析中
(実体経済への悪影響、消費マインドの冷え込み、可処分所得の減少、節約志向、家計防衛など)
- ・この外部環境の変化の分析に基づき、戦略の調整の必要性を検討する

テーマ・基本戦略

プレミアムきのこ総合
メーカーとしての
基盤確立

まいたけでの
圧倒的No.1の
達成と維持

生産・包装の
技術革新の
追及

需要拡大につながる
機能性、きのこ
高品質化研究

財務体質の
強化

当社独自モデルの
海外展開への
準備

定量目標

営業利益:年平均成長率7%前後

注1):IFRS に基づく財務報告値ベース

注2):年平均成長率の対象期間は 2020 年3月期から2023 年3月期の3年間

注3):営業利益は一過性費用を除いた調整後営業利益(営業利益+その他調整費用)を使用



健康需要の拡大を捉えた、まいたけ事業を中心とするトップラインの成長



アグリテックの追求による生産性の向上



ECを中心とした健康食品事業の拡大

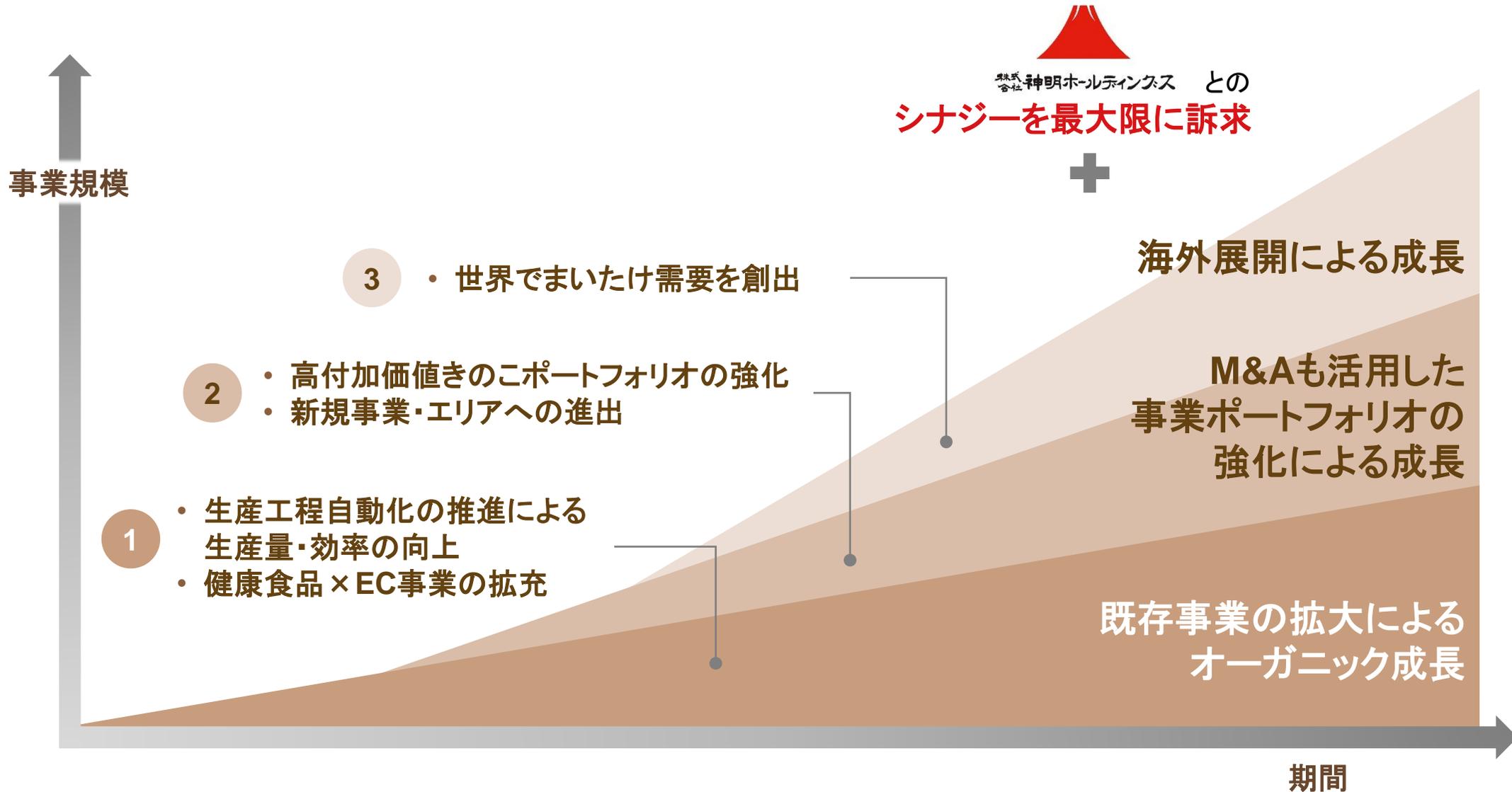


M&Aも活用した事業ポートフォリオの強化



中長期的な成長イメージ

- ・ 中長期的には、神明ホールディングスとのシナジーを活かしながら、技術革新によるコスト効率化、生産キャパシティの増強や ECの販路拡大のオーガニック成長に加え、M&Aを中心とした事業ポートフォリオの強化及び海外展開による成長に取り組むことで、更なる成長を企図





4

參考資料



雪国まいたけグループの概要

株式会社雪国まいたけ



代表者	足利 厳
設立年月	1983年7月
本社所在地	新潟県南魚沼市
証券コード	1375
上場市場	東京証券取引所市場第一部
発行済株式数	39,910,700株
従業員数 ^{*1)}	社員: 1,105名、臨時雇用者数: 1,319名 (2021年3月末時点)
事業内容	まいたけ、エリンギ、ぶなしめじの生産販売 及びきのこの加工食品の製造販売



瑞穂農林株式会社



京都府京丹波町での
本しめじ、はたけしめじの
生産・販売



株式会社きのこセンター金武



沖縄県金武町での
ぶなしめじの生産・販売



株式会社三蔵農林



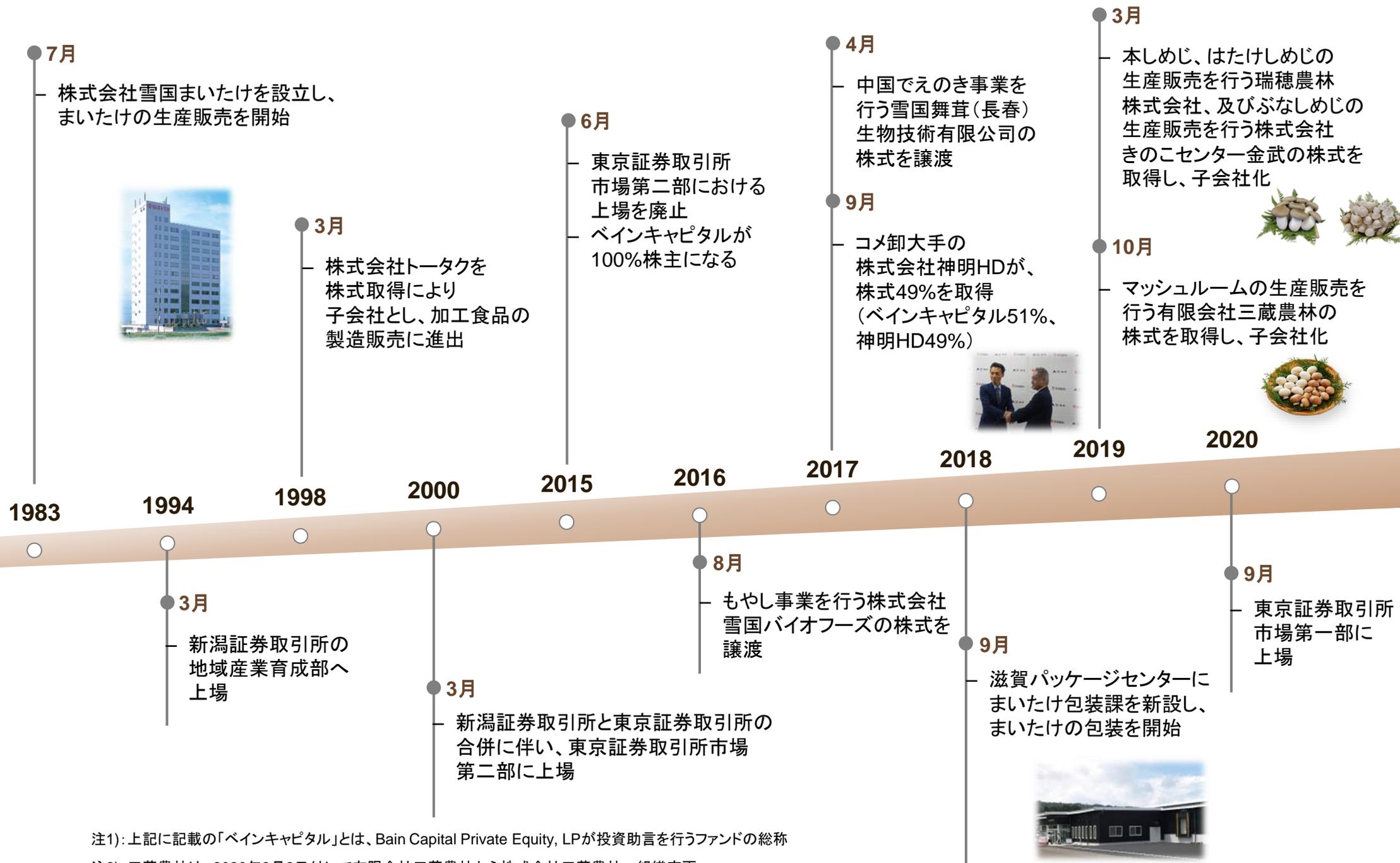
岡山県牛窓町でのマッシュルーム
の生産・販売



*1): 従業員数は就業人員であり、社員数(当社から社外への出向者を除き、社外から当社への出向者含む)と、臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員、季節工を含む、最近1年間の平均人員数)で構成



主な沿革



注1): 上記に記載の「ベインキャピタル」とは、Bain Capital Private Equity, LPが投資助言を行うファンドの総称

注2): 三蔵農林は、2020年3月2日付にて有限会社三蔵農林から株式会社三蔵農林へ組織変更



・ ましたけの人工栽培と量産のパイオニアであり、きのこの工業生産を手掛けるリーディングカンパニー

雪国まいたけ
「極」・「雅」



雪国えりんぎ



雪国しめじ
「恵み」



ミツクラ農林^{*1)}
マッシュルーム



本しめじ^{*1)}
「大黒本しめじ」



はたけしめじ^{*1)}
「丹波しめじ」



加工食品^{*2)}



健康食品^{*3)}



*1): 茸その他に分類

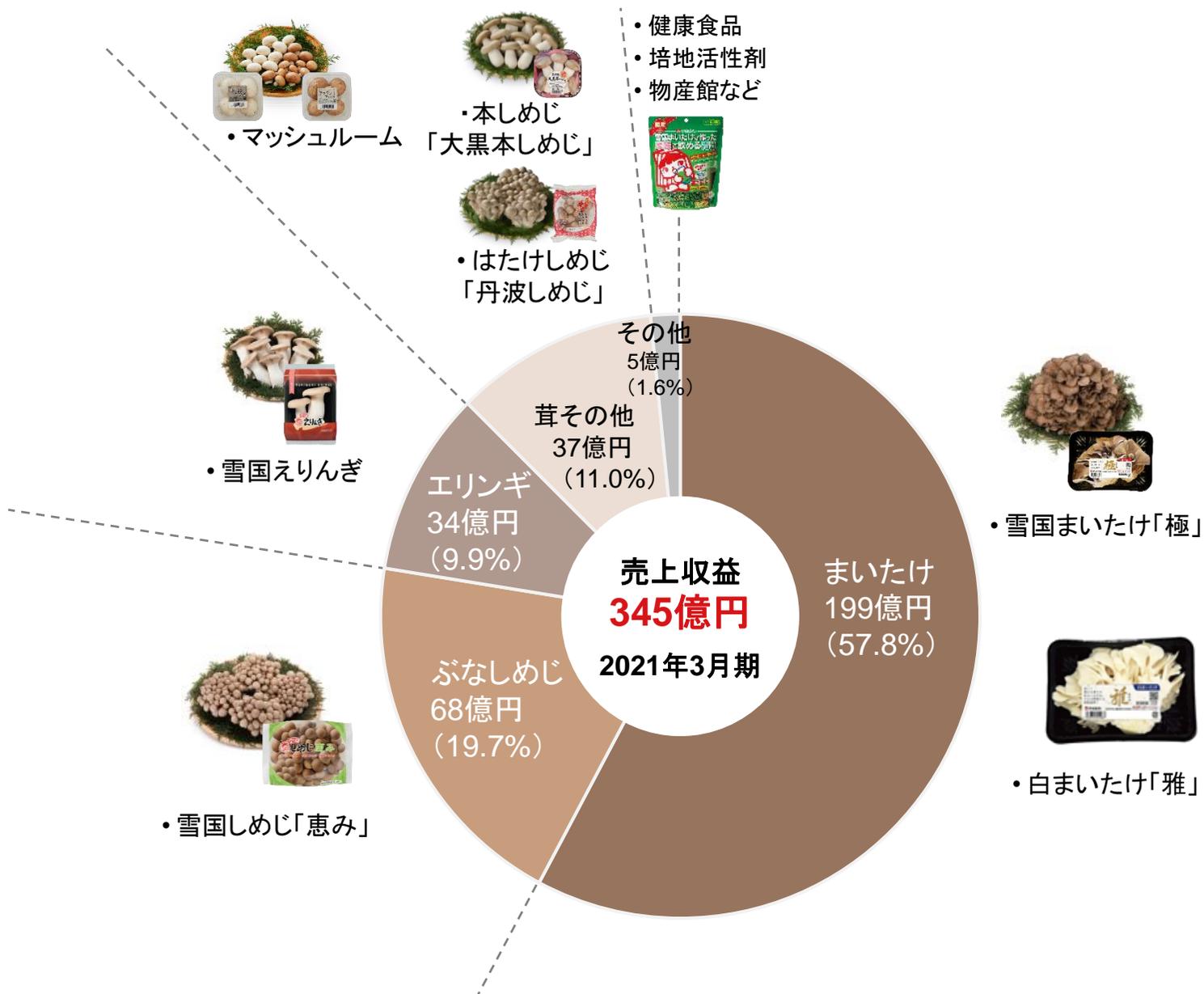
*2): 各きのこの加工食品は、原料となるきのこのセグメントに分類

*3): 健康食品等は、その他事業に分類



主な取扱商品と売上収益の構成比

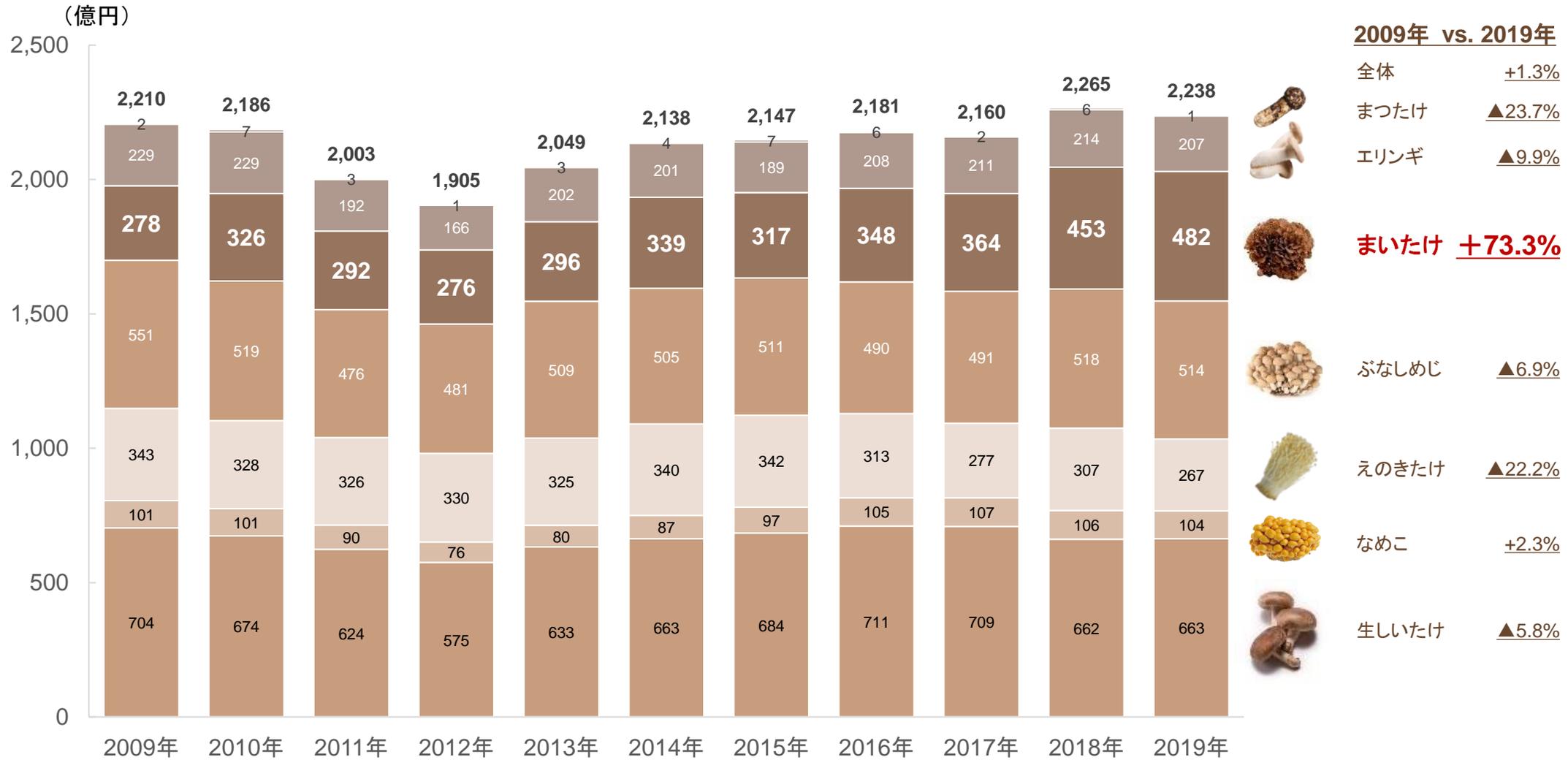
- まいたけの量産を世界で初めて成功し、きのこ生産を工業化した、「プレミアムきのこ」のトップシェアメーカー
- まいたけをはじめとしたきのこ類に加え、きのこポータルフォリオを活かした健康食品、加工食品等を展開





きのこ市場の動向

- きのこ類全体の市場規模は東日本大震災に付随する風評被害等の影響を受け一時的に縮小したものの、2013年以降は拡大基調。中でもまいたけは高成長を実現



注1)きのこ市場(全体)は生しいたけ、なめこ、えのきたけ、ぶなしめじ、まいたけ、エリンギ、まつたけを合計した市場規模

注2):各種きのこの市場規模は、「東京卸売市場の年次卸売平均単価(1月～12月)×国内生産量」で算出

注3):「ぶなしめじ」の市場規模計算時の単価には「しめじ」の平均単価を使用

出所:林野庁 特用林産基礎資料、農林水産省 地域特産野菜生産状況調査、東京都中央卸売市場 市場統計情報

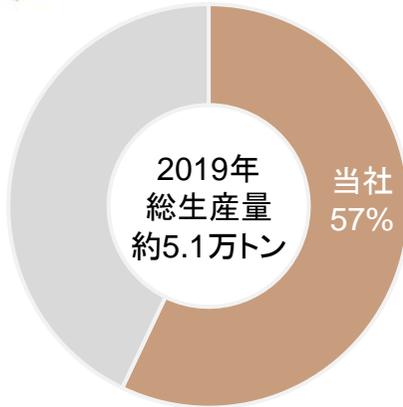


雪国まいたけグループ きのこ生産量シェア

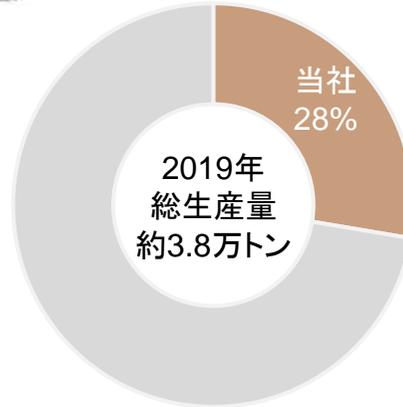
- まいたけをはじめ、展開する各きのこのマーケットにおいて高いシェアを獲得



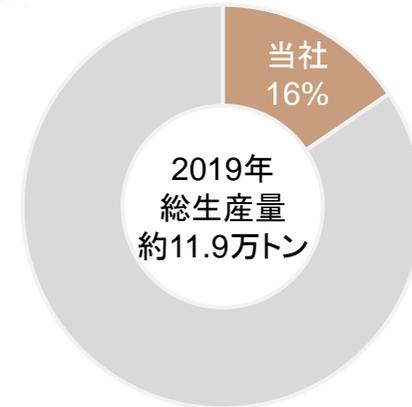
まいたけ



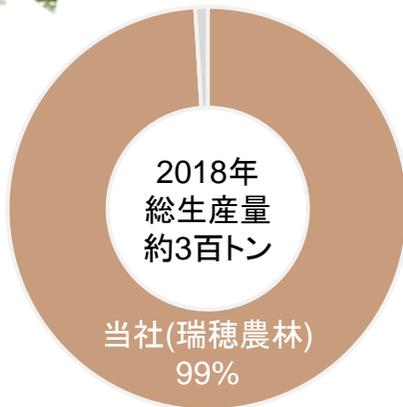
エリンギ



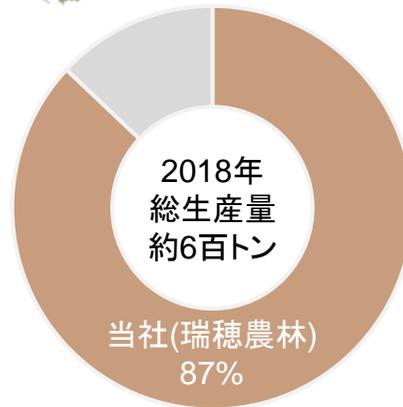
ぶなしめじ



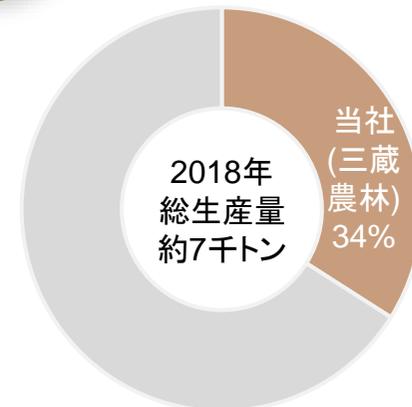
本しめじ



はたけしめじ



マッシュルーム



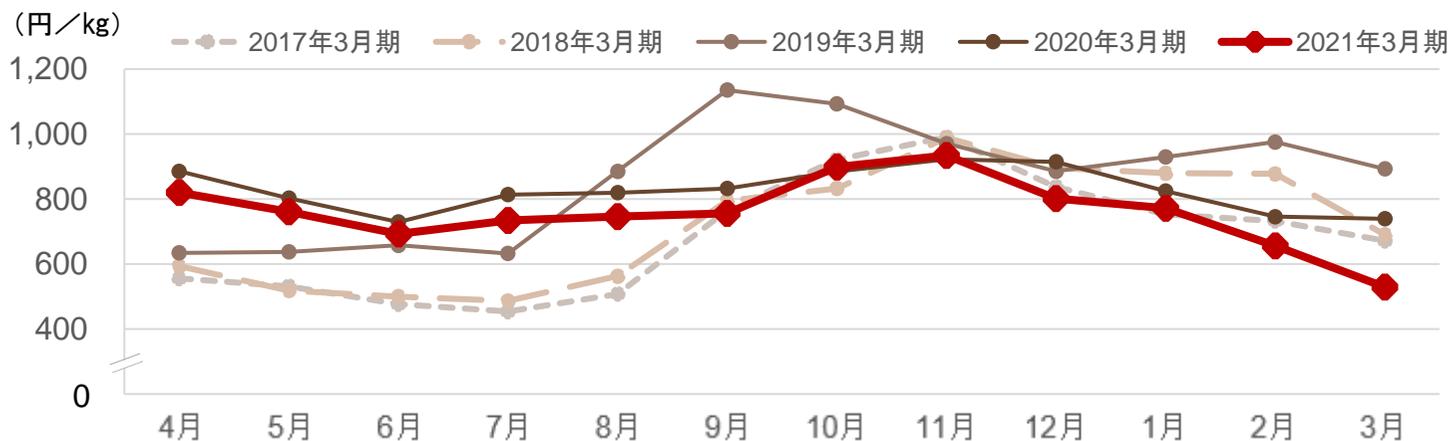
注): 各種きのこの市場シェアはそれぞれ国内生産量ベースで算出(弊社生産量÷国内全体での生産量)

出所: 林野庁特用林産物生産統計調査、農林水産省地域特産野菜生産状況調査



外部環境 市場取引単価の推移

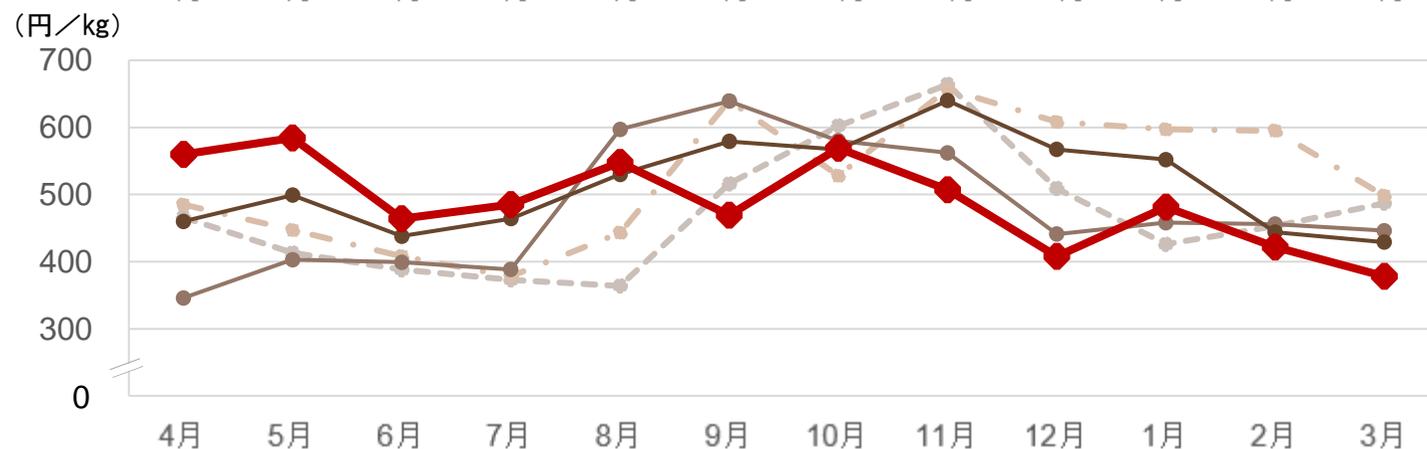
まいたけ



加重平均単価 (円)

2021年3月期	762
2020年3月期	831
2019年3月期	873
2018年3月期	727
2017年3月期	699

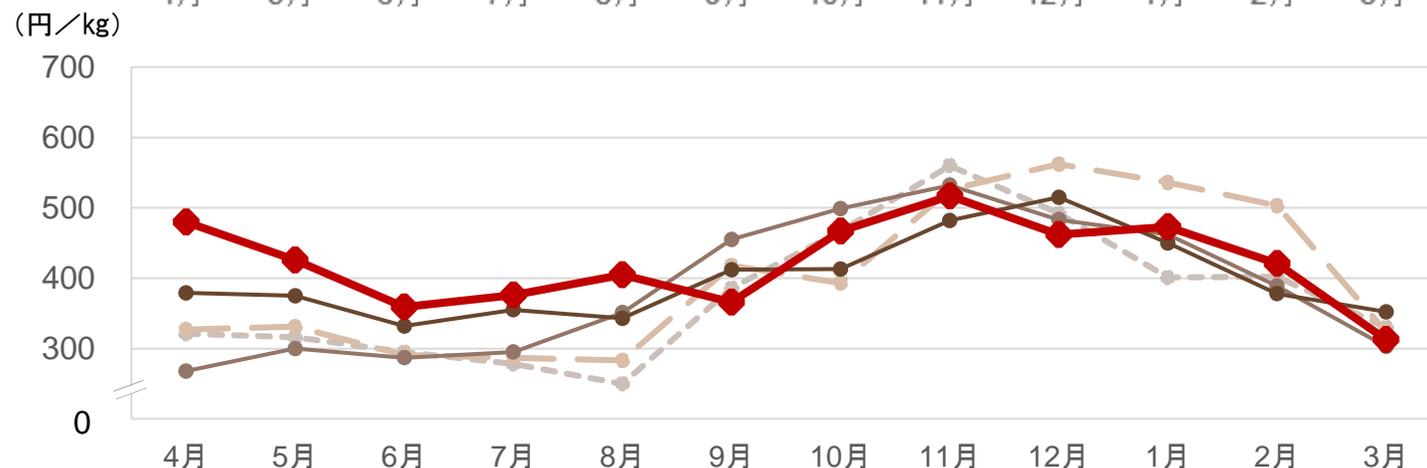
エリンギ



加重平均単価 (円)

2021年3月期	486
2020年3月期	514
2019年3月期	475
2018年3月期	527
2017年3月期	476

ぶなしめじ



加重平均単価 (円)

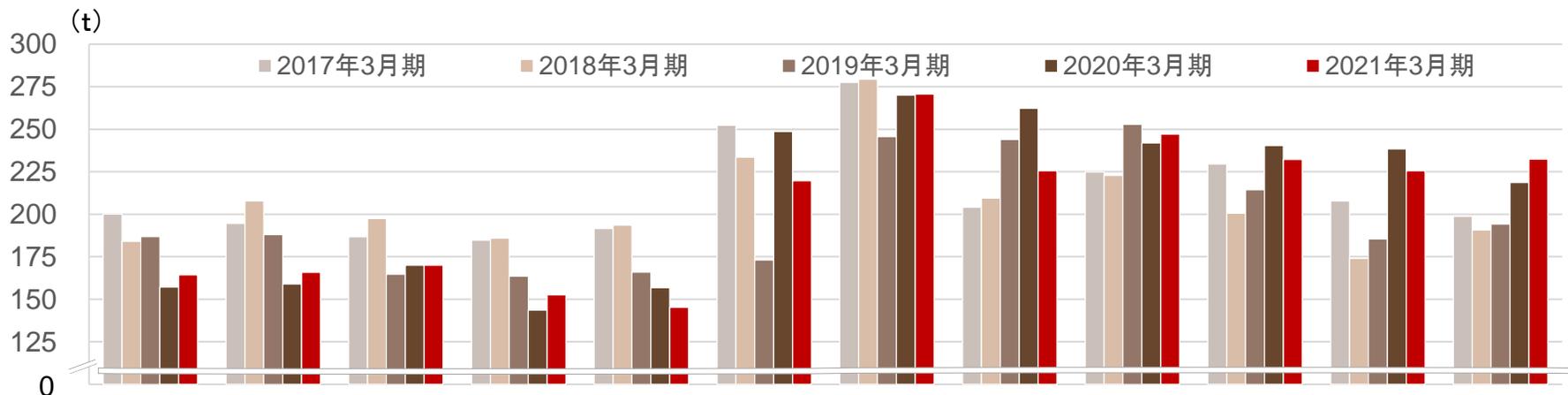
2021年3月期	422
2020年3月期	405
2019年3月期	388
2018年3月期	403
2017年3月期	384

出所: 東京都中央卸売市場 市場統計情報を基に当社作成

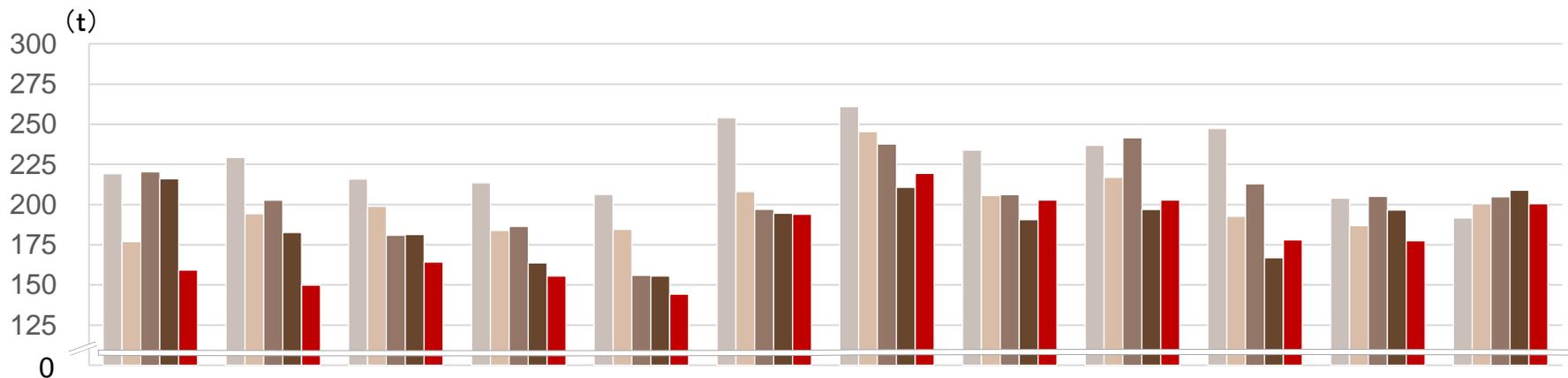


外部環境 市場販売量の推移

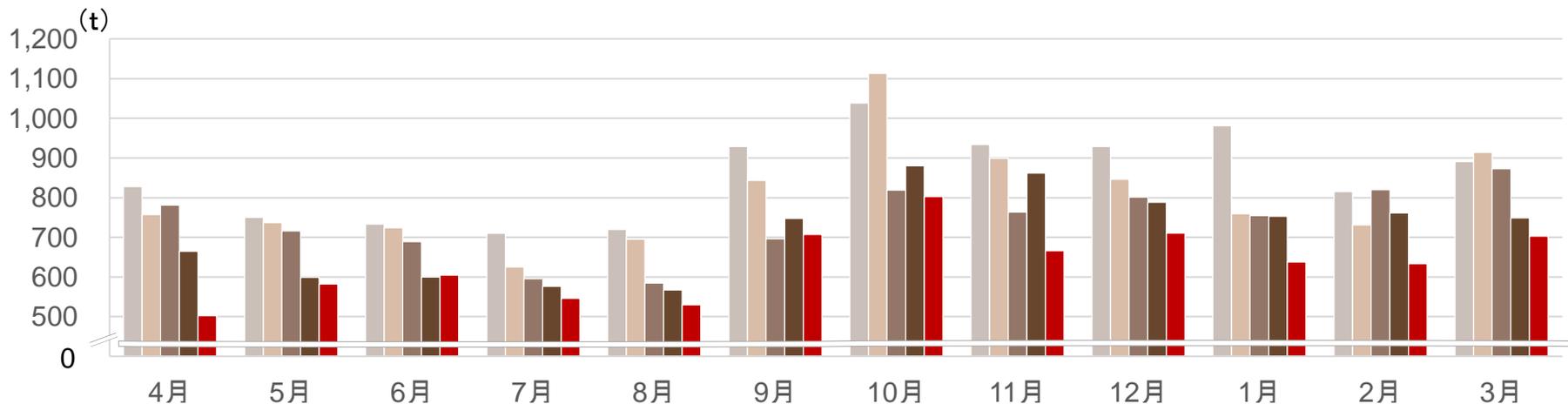
まいたけ



エリンギ

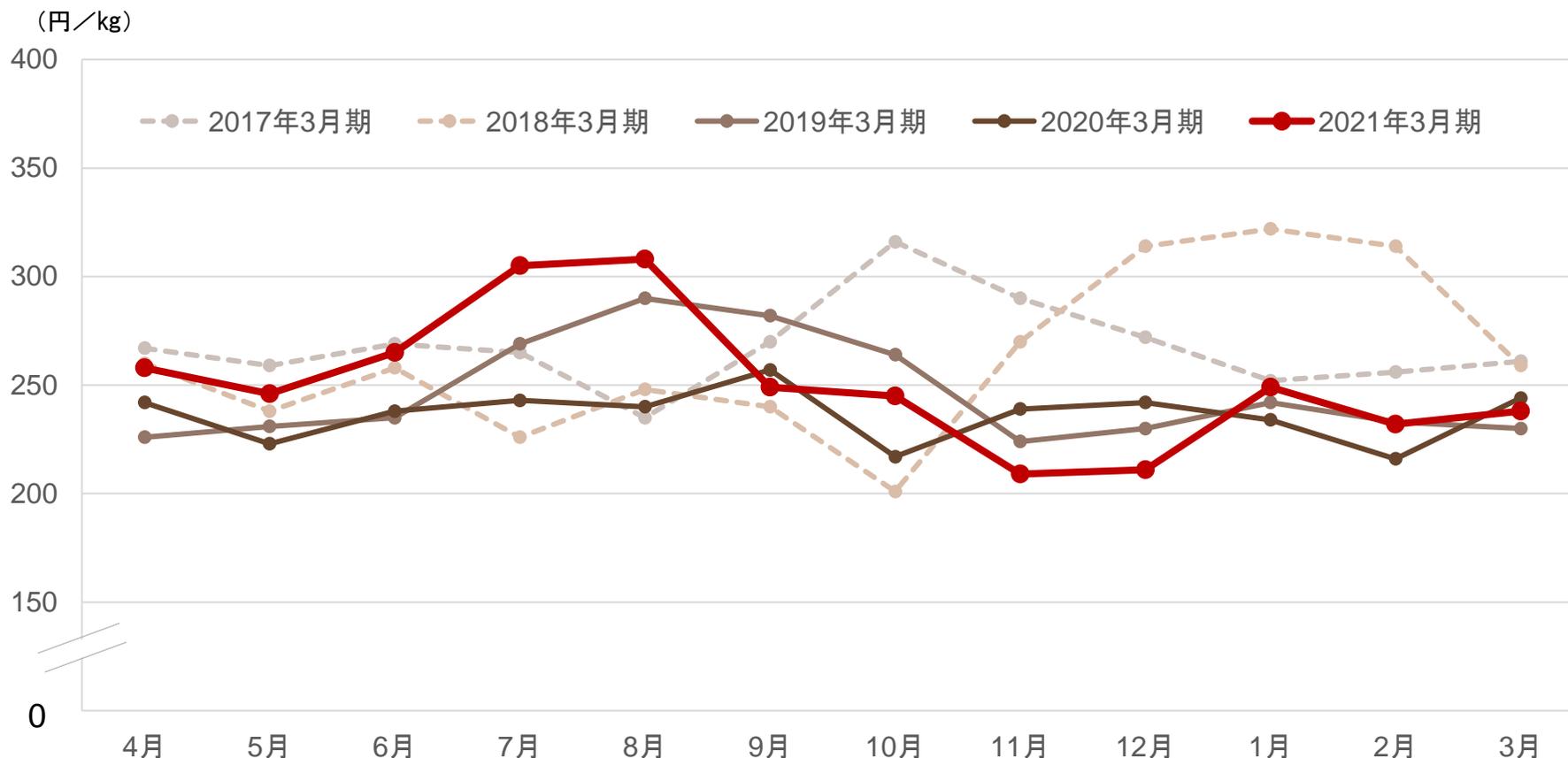


ぶなしめじ





外部環境 野菜相場



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2021年3月期	258	246	265	305	308	249	245	209	211	249	232	238
2020年3月期	242	223	238	243	240	257	217	239	242	234	216	244
2019年3月期	226	231	235	269	290	282	264	224	230	242	233	230
2018年3月期	260	238	258	226	248	240	201	270	314	322	314	259
2017年3月期	267	259	269	265	235	270	316	290	272	252	256	261

出所: 東京都中央卸売市場 市場統計情報を基に当社作成



バリューチェーン

- まいたけ事業をコアとした独自のバリューチェーンにより、高い参入障壁とキャッシュフローを創出するビジネスモデルを確立





- 栽培が困難なまいたけを世界で初めて工業化し、安定的な生産・供給体制を実現
- アグリテックの追求による生産性向上への取り組みも積極的に行う

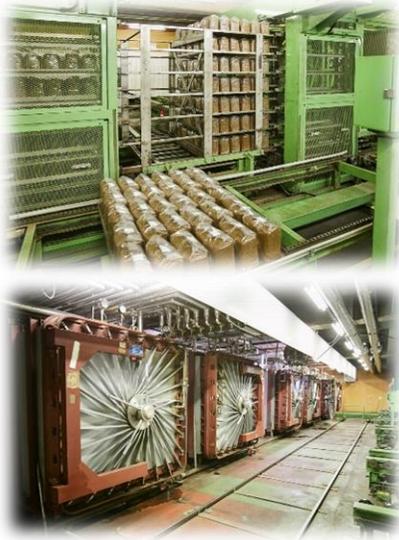
安定した生産能力・収穫・品質

培地合成

植菌

培養・育成

収穫/包装



- 独自レシピで培地を配合し、農薬や化学肥料は一切不使用
- 高温・高圧で培地を殺菌



- 独自に開発した自社菌を培地に植え付け
- 植菌作業の自動化への取り組み
- クリーンルーム管理による雑菌対策



- 広大な培養室と発生室でデータによる科学的な環境管理
- 光環境、温度・湿度制御を適切に管理し、大量生産を実現



- エリンギ・ぶなしめじでは多くの生産工程で自動化を実現





当社まいたけの特徴

- まいたけを天然同様のサイズに成長させ、食感を最も引き出せる袋栽培を採用し、大規模栽培によるまいたけの工業生産を実現

栽培方法

- **袋栽培**を採用



商品の特徴

- 旨みと風味のバランスが良く、高品質なまいたけを実現
- 歯ごたえ、弾力性が強い「**茎**」が大きく、食べ応えがある



- 1株が大きく、需給に合った多様な容量の商品を展開



スリムパック



グルメパック



LLパック

- 1株あたりの重量は **約900g**



50g

80g

100g

120g

150g

200g

350g

※重量はおおよそのグラム数



- まいたけの持つ豊富な栄養素を活用して独自で健康食品を開発・展開し、ECを通じて販売
- まいたけを活かした、新商品の開発にも積極的に取り組む

雪国まいたけ ONLINE

株式会社雪国まいたけが運営する公式オンラインショップです。まいたけ由来の健康食品「まいたけのふしぎ」シリーズを販売しています。 ▶ サイトマップ ▶ お問い合わせ ▶ コーポレートサイト

ご注文・商品に関するお問い合わせ ▶ マイページ
 0120-990-533 ▶ カートをみる
 受付時間 9:00-17:00(土日・祝除く)

HOME | まいたけのふしぎシリーズ | 商品一覧 | 定期コースの案内 | はじめての方 | よくある質問

定期コースの
3つの特典

特典①
初めてお申込みの方限定
50% 通常価格の
%OFF
最大で3個まで注文可能

特典②
定期コースの
期間縛りなし
初回のご注文で
解約・休止OK

特典③
お好みの周期
でお届けが可能！
数や日程変更もOK

無理なく続けていただきたいから
3 つの嬉しい特典

特典① 特別割引価格で購入できる！

特典② 回数縛りなく、解約・休止可能！

特典③ 数やお届け日などの変更も調整可能！

▶ 定期コース詳細を見る

会員の方

- ▶ 会員情報の確認・変更
- ▶ お届け内容の確認・変更
- ▶ 定期コース内容の確認・変更

はじめての方

- ▶ はじめての方

取扱商品



【新商品】焙煎 まいたけ茶
(2021年5月～)

まいたけを100%使用した
ノンカフェインのお茶



MDフラクション®プラス



雪国まいたけの粒



まいたけア



雪国まいたけが作った
家族で飲める青汁プラス



雪国まいたけが作った
家族で飲める青汁



まいたけの健康機能性

- まいたけが持つ栄養素には、高い健康機能性が期待されており、当社は解明に向けて研究に注力

多糖類の一種「グルカン」

β-グルカン

まいたけに含まれる多糖類の一つであるβ-グルカンは、**免疫機能の維持・向上**に働くことが期待され、多数の研究がなされている。^{*1)~*3)}

*1): He et al. 2017 Int. J. Biol. Macromol. 101: 910-921.

*2): Wesa et al. 2015 Cancer Immunol Immunother 64: 237-247.

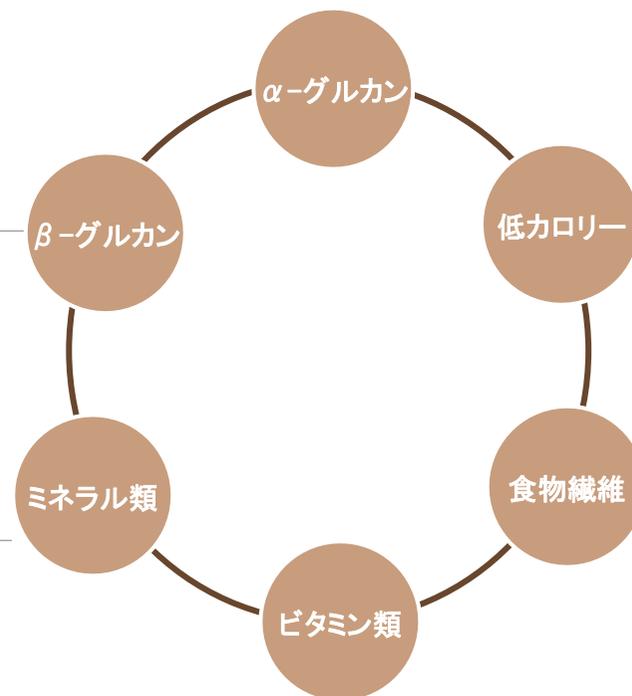
*3): Masuda et al. 2013 Int. J. Cancer 133: 108-120.

カラダに必要不可欠な栄養素

ミネラル類

ミネラルは、カラダに欠かせない栄養素だが、体内で作ることができないため、食べ物から摂取する必要がある。

まいたけには、余分な塩分を体外に出す働きがある**カリウム**やカラダの調子を整える**マグネシウム**等が含まれている。



さまざまな効果が期待される

まいたけの食物繊維

食物繊維は、食後血糖値の上昇を抑える効果が期待されている。さらに、まいたけには、最初に摂った食事が次に摂った食事の後も血糖値上昇を穏やかにする「**セカンドミール効果**」が確認されている。^{*4)}

また、食物繊維は、脂質や糖等を吸着して、体外に排出する働きがあるといわれており、まいたけに含まれる食物繊維は、**便の量を増やし**、消化管の通過時間を短縮させる。

*4) 『マイタケの血糖値上昇抑制効果とセカンドミール効果』
第64回 日本栄養食糧学会大会



まいたけの食べ方提案

- 毎日手軽にまいたけの栄養素を摂取できる食べ方をまい足し®メニューの提案等で発信

「まい足し®」メニューの提案

春



雪国きのこと春キャベツ・桜えびの炊き込みごはん

夏



雪国まいたけ極とトマトのキーマカレー

冬



雪国まいたけ極のミルフィーユすき焼き

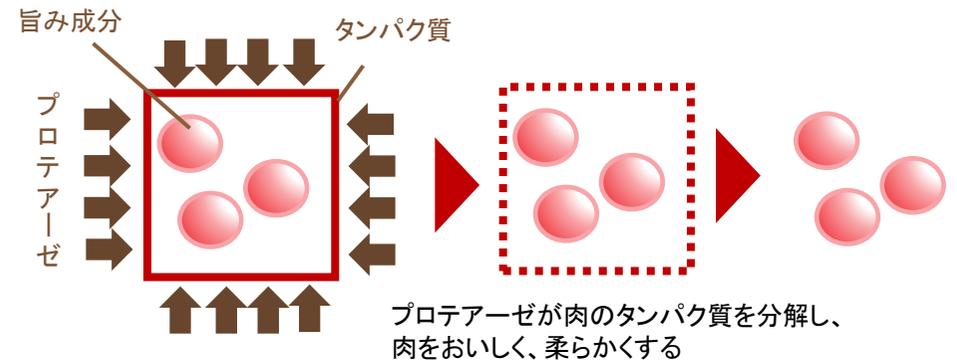
秋



雪国きのこと鮭の味噌炊き込みごはん

お肉を美味しくする食材としてのまいたけ

- 「まいたけ」に含まれるプロテアーゼという酵素が肉のタンパク質を分解して肉が柔らかくなり、アミノ酸を作り、旨味が増す



- 「まいたけ」には、三大旨味成分のうち“グアニル酸”と“グルタミン酸”を含み、肉の持つ“イノシン酸”と合わさり、相乗効果で料理のおいしさがアップ



グアニル酸
グルタミン酸



イノシン酸



旨みの
相乗効果

まい足し®とは、いつものメニューにまいたけをプラスすることで実現する「おいしく」「ヘルシー」な生活習慣のこと



サステナビリティに対する取り組み

- 環境保全に向けて、資源の最大限の活用やエコフレンドリーなエネルギーへの切り替え等の取り組みを強化中

ムダが少ない



廃棄ロスが極めて少ない

- 廃棄となったきのこも有効活用

資源のリユース



培地の再利用を推進

- 栽培に使用した後のおが粉をバイオマスボイラーの燃料等に全て再利用

気候変動の緩和



エネルギー変換効率の高い新電力やLNGの導入

- 地熱等の自然エネルギーも活用
- ユーティリティの見直しを行い、A重油からLNGの転換を進める



社会貢献活動

- ・ 環境保全活動への支援や地域社会の活性化・発展への支援を通じて、社会の持続可能性を高める社会貢献活動にも取り組み中

Team Ecoへの参画

UX新潟テレビ21が主催する環境保全活動の趣旨に賛同し、2019年から協賛メンバーとして参加



地域イベントへの協賛

地域で開催されるスポーツイベントへの協賛、お祭り等への参加を通じて、地域の活性化に貢献



南魚沼 - 沖縄金武交流会への協賛

株式会社きのこセンター金武が当社グループに加わった2019年より南魚沼・金武町小学生交流会へ特別協賛

新潟の子供たちは金武町の工場を、沖縄の子供たちは南魚沼市の工場をそれぞれ見学

地元小学生の見学受入れ

地元小学生の校外学習社会科見学の 일환として、きのこ生産・包装センターの見学受入れを実施





SDGsへの取り組み

- ・ 地域社会とともに持続可能な未来を実現するため、人と森が共生できる森林公園を整備する
「雪国まいたけの森づくり活動」に取り組む

活動イメージ

荒廃した森林を間伐し、木々が育ちやすい環境を整え、人が訪れる空間をつくる



杉の人工林を間引いて健全な森林に誘導するとともに、広葉樹を植栽し地力の高く景観の良い針広混交林をつくる



活動内容

実施活動

- ・ 南魚沼市、南魚沼森林組合、新潟県南魚沼地域振興局の各代表者と、森づくり活動に関する協定を締結
- ・ 新潟県南魚沼市にある大原運動公園に隣接した森林6.3ヘクタールを南魚沼市より借り受ける
- ・ これまで手入れが行き届かなかった森林を、関係者ならびに従業員の参加により整備を開始

活動計画

- ・ 健康な森づくりのための間伐と植栽
- ・ 伐採した木材はきのこ栽培用原料として活用
- ・ CO₂吸収量計測に向けてのモニタリングと算定



本活動によりSDGsとして期待される効果



- ・ 自然災害の被害抑制
- ・ 再生可能エネルギーを活用し、CO₂排出を削減
- ・ 中山間地の雇用増加・経済発展



本資料に係る免責事項

本資料は、資料作成時点において当社が入手している情報に基づき策定しており、当社の実際の将来における事業内容や業績等は、本資料に記載されている将来展望と異なる場合がございます。

また、独立した公認会計士又は監査法人による監査を受けていない、過去の財務諸表又は計算書類に基づく財務情報及び財務諸表又は計算書類に基づかない管理数値が含まれていることをご了承ください。



株式会社雪国まいたけ

証券コード: 1375